

層狀ニ放散シ、以テ大及小坐骨孔ヲ形成ス、薦骨ト腸骨翼トノ關節、及ヒ間軟骨、腸骨翼、座骨、恥骨、閉鎖孔、恥骨縫隙、脾臼、大腿頸、大小轉子、大腿骨幹等ヲ認メ、殊ニ大腿骨幹部ハ下方ニ至ルニ從ヒ、皮質ノ増加ヲモ明ニ表ハシタリ。而シテ骨盤周圍ノ軟組織、筋、陰囊、陰莖、龜頭等一塊トナリテ界セラル、ヲ示ス。

故ニX線ヲ以テスレハ、己ニ生体ニ於テ容易ニ骨格ノ變形、又ハ關節狀態ヲ知ルヲ得ベシ、則チ脊柱彎屈ノ如キX線ノ影像ニ據テ之ヲ計測セハ、大ニ精密ナルヲ得ルヤ明ナリ、其前後ノ方向ニ彎屈スルモノハ側方ヨリ、左右ノ方向ニ彎曲セルモノニハ矢狀ノ方向ヨリ照スベキナリ、己ニよあひむすた—る「ouchinthal」ハX線ヲ應用シテ、脊柱側彎症ニ就テ精密ナル探究ヲ遂ケタリ。

(未完)

孤 録

●發火財源ニ就テ

(Dr. P. Fritzsche)

藥學得業士 山岸理一郎抄譯

發火財源ノ試験及與ヘラレタル材料ヲ以テ其利用ヲ達セントスルヲ確定スルニハ應用シタル燃燒材ノ熱價ヲ往々唯溫計彈丸 (Calorimetrische Bombe) ノ幫助カ或ハ其確互斯狀ニ於テハ Jünker Calorimeter ノ助ケヲ以テ確定スルナリ然レモ此法ハ精密ナル試験ニ向ツテハ未タ充分ナラズ即

チ已明ノ熱價及發見シタル熱力ニヨリ算定ス可キ彼ノ温ノ消失ノ大小ヲ知ラントスル如キ然リト
 ス而已ナラズ吾人ハ亦消失ノ原因ヲ一層精密ニ知得セントスルナラン之ヲ知ラントスルハ放出瓦斯ノ
 含量ヲ算定シ得ヘキ彼ノ燃料ノ組織學ヲ必用トス然レモ屢々化學的檢査ノ企圖ニ必用ナル平均試
 驗ガ其他最早出來サルカ或ハ屢々變化スル燃料ニ於テ檢査費用ノ多キガ爲燃料ノ化學的分拆ヲ廢
 棄セザル可カラサル場合ヲ生スルモノナリ故ニ如ストキハ吾人ハ單簡ナル法ヲ應用シ且又燃料ノ
 化學的組織ノ知識ナシニ放出瓦斯ノ分拆ヨリ生シタル放出瓦斯量ヲ算出スルヲ可トス

Lunge 氏ハ此目的ニ迄燃料中ノ水素硫黃及水ヨリハ全ク視過シ唯炭素ノミヲ注意スヘキヲ稱揚
 セリ氏ニ依レバ「キログラム」ノ純粹ナル炭素ノ放出瓦斯中ニ於テ炭酸量ヲ以テ容量「プロセント」
 トセバ放出瓦斯中一、八五四立方厘米突ノ CO_2 及 $1.824 \frac{100-m}{n} \text{cbm}$ ノ酸素及窒素ヲ逃散セサルヘカ
 ラス此式ハ唯 Coke 及無焙炭ニ向ツテハ稍ヤ正確ヲ與フルヲ又此式ハ唯此物質ニ對シテ適應セラ
 レタルヲ明瞭ナリ、然レモ吾人ハ放出瓦斯ノ水分量ヲ知ルルハ凡テノ固形燃料ヨリ生スル燃燒成
 績表ノ量ヲ稍ヤ正確ニ算定スルヲ得

放出瓦斯ノ水分量ハ大約一五 cm ノ高サヲ有スル小ナル格魯兒加爾漫圓筒ノ幫助ヲ以テ最モ良ク
 定量スルヲ得瓦斯ノ出入管ハ「クエッチハン」ヲ有スル護謨線ニ由テ密栓シ圓筒ハ尙ホ五 mg ノ積荷
 ナモ充分ニ傾ケル天秤ノ上ニ秤リ爾後下ヨリ圓筒ヲ澄シテ放出瓦斯ヲ吸收シ(五〇—一〇〇)ノ「リ

「テール」ノ内容ヲ有スル「カスピライトル」ノ幫助ヲ以テ)瓦斯量ヲ測定シ且圓筒ヲ再ヒ秤量ス圓筒ニハ鬆疎ナル「カスピベスト」ヲ以テ充シタル短管ヲ煤煙及飛埃ノ防塵ノ爲ニ挿入ス如斯一定量ノ乾燥瓦斯中ニ存在スル水分量ヲ得且此量ヲ一立方迷突ノ乾燥放出瓦斯ノ瓦「プロセント」ニ改算ス今Kヲ放出瓦斯ノ容量「プロセント」ニ於ケル炭酸量Kヲ酸化炭素nヲ窒素量、Oヲ酸素量トシ尙ホfヲ一cbmノ放出瓦斯中ニ於ケル全水量fヲ燃燒材ノ放與スヘキ水素(Disponible Wasserstoff)ヨリ生シタル水分量(一cbmノ放出瓦斯ヲ改算シタル)及f'ヲ一cbmノ燃燒シタル空氣中ニ含まレタル水分量(Hygrometerノ報告ニ從フタル)ヲ表ハスキハ燃燒材ノ化學的結合シタル反濕度ヨリ成ル分量ニ最畧近値ヲ求ムレバ $f - (f' + f'') = 4$ ナリ茲ニ $f = \left\{ \frac{n}{3.76} - \left(k + \frac{k'}{2} + 0 \right) \right\} \cdot 1.429 : \frac{9}{8} : 100$ 放與スヘキ水素H $\equiv \frac{f}{9}$ ナリ

炭素ト燃燒材ノ放與スヘキ水トノ關係及炭素ト燃燒材ノ化學的結合スヘキ水及溫度トノ關係ハ燃燒自己ニ於ケルガ如ク放出瓦斯ニ於ケルモ同一ナラサルベカラズ故ニ放出瓦斯ニ於テハ

$$\frac{k+k'}{100} : 0.539 : h : 4$$

吾人 $\frac{k+k'}{100} : 0.539 : h = n$ 文字ヲ代用シ $\frac{k+k'}{100} : 0.539 : 4 = b$ 文字ヲ代用シ且kヲ灰分ヲ有セザル

燃料ノ一「キログラム」ニ於ケル炭素量トスルキハ

$$k + \frac{k}{2} + \frac{k}{1} = 1 \text{ 或 } k = \frac{1}{1 + \frac{1}{2} + 1}$$

ナリ

尙燃料ニ硫黃ヲ注意セントシ且sヲ以テ放出瓦斯ニ於ケル亞硫酸ノ量トシcヲ以テ炭素ト硫黃トノ比トナセバ

$$F = \left\{ \left[\frac{m}{3.76} - \left(k + \frac{k}{2} + 0 + s \right) \right] 1.429 : \frac{9}{2} \right\} : 100 \text{ 及 } k = \frac{1}{1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{6} + 1} \text{ トナル}$$

若シ硫黃ノ量 $1\frac{1}{2}\%$ ヲ超過セザルキハ亞硫酸ハ然シ放出瓦斯分拆ノ惡シキ法ニ由テハ最早確實ニ定量スル能ハザルガ故ニ多クノ場合ニテハ砲黃ノ注意ヲ畧スルヲ得

Kニ算ス可キ價格ハ已明ノ法ニヨリテ「キログラム」ノ燃料ヨリ生シタル放出瓦斯量ヲ實際至達ノ綿密ヲ以テ算定スルヲ得

● 林檎鐵越幾斯及林檎鐵丁幾ニ合マレタル鐵ノ定量法

E. Dietze 氏ハ獨逸藥局方ニ掲ケラレタル他ノ鐵劑ニ就テノ模範定量法ニ注意ヲ唱ヘリ

林檎鐵越幾斯ノ「グラム」ヲ坩堝ニ於テ灰化シ炭含有ノ殘渣ヲ反覆一二滴ノ硝酸ヲ以テ處置シ然シテ之ヲ赤褐色トナル迄熾灼シ爾後殘渣ヲ「グラム」ノ鹽酸ニ溶解シ其溶液ヲ少量ノ水ヲ以テ硝子

栓ヲ有スル罨ニ洗入シ一「グラム」ノ沃度加餾液ヲ加ヘ而シテ此混液ヲ室内温度ニ於テ一時間長ク密閉器中ニ放置セシム但シ茲ニ拆出シタル沃度ノ化合ニ迄110定規次亞硫酸那篤餾液ノ一〇、七—一四、二ccヲ加ヘザル可カラス又 Dietze 氏ハ鐵含量ノ限界價格トシテ最少含量六%最高含量ヲ八%ト要求セリ

林檎鐵丁幾ノ十「グラム」ニ五「グラム」ノ鹽酸ヲ加ヘ黃褐色トナル迄加温シ少許ノ生起シタル拆出物ヲ瀘過シ瀘紙ヲ水ヲ以テ洗滌シ其澄明瀘液ヲ五十ccトナシ其二十五ccヲ僅カニ持續スル紅色ヲ呈スル迄過滿俺酸加餾液(5,1000)ヲ加ヘ爾后一「グラム」ノ沃度加餾液ヲ附加シ此混液ヲ密閉シタル硝子栓ヲ有スル罨中ニ室内温度ニ於テ一時間放置ス但シ茲ニ拆出シタル沃度ノ化合ニ迄110定規次亞硫酸那篤餾液ノ四、五—七、一ccヲ加ヘザルハカラス Dietze 氏ハ丁幾ノ鐵含量ヲ越幾斯ニ一致シテ定メタルモ例外シテ鐵ノ最少含量ヲ〇、六或場合ニハ〇、五%ヲ要求シ其他越幾斯ガ往々(殊ニ永キ貯藏ノ場合ニ於テ)水ニ不溶性鐵含有ノ殘渣ヲ殘留スルコトヲ注意セリ
Dietze ハ又林檎鐵越幾斯ノ試驗ノ際應用スルヲ得ルモノトセリ

●荅滿林度實ノ重亞成分其定量法ニ就テ

R. Neumann ハ上ノ如キ題目ニ就テ氏ノ長キ業作ヲ發表セリ

試験ニ供シタルハ拾個ニシテ東印度産ノ多クハ「カルカッタ」種ニシテ埃及種ハ龍動市場ニ於テ得ルヲ能ハサリキ試験ハ殊ニ有機酸即チ枸橼酸、酒石酸及林檎酸尙ホ酒石ノ含量、糖分、種子、可溶性残渣及濕度量ニ及ボセルモ之ニ反シ護謨粘液、色素、及「ペクチン」体ニハ敢テ注意セサリキ然シテ Neumann 氏ハ酸ノ定量ニ迄 E. Fleischer 氏ノ試法ヲ少シク改正シテ應用シタルナリ

著者ハ平均

遊離酒石酸

七、〇六二%

酒石

七、四七一%

枸橼酸

三、〇五〇%

林檎酸

〇、九六九%

ヲ發見セリ

E. Jos Brinner 氏ハ同目的大ナル業作ヲ爲セリ即チ「カルカッタ」答滿林度ノ二十一種及西印度産答滿林度ノ標品ヲ試験シ E. Fleischer 氏ニ從ヒテ實行シタル酸ノ定量ニ次ノ如キ中數ヲ得タリ

遊離酒石酸

六、六三%

酒石

四、八七%

●抄録

●抄 録

枸 櫞 酸

一、七六%

著者ノ分拆ニハ實ノ含量ニ於テ尙ホ種子、植物細胞素、水分、越幾斯、粘液素、糖分、可溶性灰分、不溶性灰分、ニ及ホシタルモノニシテ其平均價格ハ下ノ如シ

種 子

一〇、四七%

植物細胞素

一五、六一%

水 分

二四、八六%

越 幾 斯

四八、三四%

粘 液 素

一、九五%

糖 分

一八、三六%

可溶性灰分

三、五六%

不可溶性灰分

一、一九%

●「ベ子ダクト」氏脂肪類及蠟種ノ分拆

藥學得業士 金谷彦次抄譯

第一脂肪類及蠟種ノ性分

天然ノ脂肪及蠟種ナル名稱ニ於テ吾人ハ總テ植物或ハ動物性有機體ヨリ構成セラレタル物質ヲ理

解スヘキモノニシテ其物質ハ重ニ脂肪酸列ノ高等ナル偏俚設林依の兒又ハ他ノ依の兒類ヨリ成ルモノニシテ其他ニ遊離ノ酸ヲ混スルモノト然ラサルモノトアルナリ。

以上ノ物質ハ其稠度ニ從ヒ次ノ如ク區別セラル

- 1 流動脂肪即チ油類但シ海獸ヨリ得ラルベキ流動ノ脂肪ハ魚油 (Thrane) ト稱ス
- 2 半數脂肪、(獸脂及牛酪類)
- 3 固形脂肪
- 4 蠟種、此ハ堅固ニシテ且脆弱也。

初メノ三者即チ脂肪類ハ蠟種ヲ抱括スル終列ノモノヨリ異ナル点ハ其熔融点ノ低キト并ニ固有ノ潤滑ナル所謂脂肪様感覺ヲ有スルニアレヒ蠟種ハ之ニ反シテ已ニ常温或ハ加温ニ依テ粘靱トナルナリ

又化學的觀察ニ於ケル脂肪ハ蠟種トノ區別ハ脂肪ニ在テハ其本來ノ成分脂肪酸ノ中性偏俚設林依の兒ナレヒ蠟種ニハ之ニ反シテ一價ノ高等ナル構造ヲ有スル亞爾亞爾箇保兒類及脂肪酸類ヨリ成レル依の兒ナリトス此化學的原則ニ基ケル分類法ハ俗稱ニ於ケルモノトハ總テノ場合ニ一致セサルヲアリ假令バ日本蠟ノ如キ殆ンド全ク偏俚設利奴ヨリ成ルト雖モ概テ脂肪酸ニ算入セラル、鯨腦ノ如キハ「パルミチーン」酸「ツエチユール」依の兒トシテ蠟種ニ加ヘラル可キモノ也。

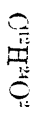
脂肪及蠟種ヲ組成スル所ノ偏俚設利奴及依的兒ハ之レヲ鹽基又ハ稀薄酸類若クハ過熱水蒸氣ト共ニ熱スル時ハ脂肪酸及偏俚設林或ル場合ニハ脂肪酸及一價ノ亞爾箇保兒ニ分解ス是レ所謂鹼化ニシテ之ヨリ以下ニ論述サル、作用ノ助ケニ依レハ脂肪及蠟種ヨリ次ノ酸類及亞爾箇保兒類ヲ得ラルノ者ナリ

A 酸 類

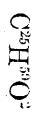
1. $C_{11}H_{21}O_2$ 集成ノ酸類(醋酸列)

牛 酪 酸 Butter Säure	$C^4 H^8 O^2$	Palmitin Säure	$C^{16} H^{32} O^2$
イソ類草酸 Isovalerian Säure	$C^5 H^{10} O^2$	Margarin Säure	$C^{17} H^{34} O^2$
カプロン酸Isobutgessi Säure Capron Säure	$C^6 H^{12} O^2$	硬 脂 酸 Stearin Säure	$C^{18} H^{36} O^2$
カプリユール酸 Capryl Säure	$C^8 H^{16} O^2$	Arachin Säure	$C^{20} H^{40} O^2$
ペラルゴン酸 Pelargon Säure	$C^9 H^{18} O^2$	Medullin Säure	$C^{21} H^{42} O^2$
Ceaprin Säure	$C^{10} H^{20} O^2$	Behen Säure	$C^{22} H^{44} O^2$

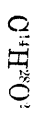
Laurin Säure



Hyena Säure



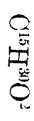
Myristin Säure



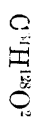
Georatin Säure



Isoctin Säure

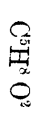


Theobromin Säure

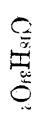


二、 $C^nH^{2n-2}O^2$ 集成ノ酸類〔アクリル酸(Acryl Säure)又ハ油酸列〕

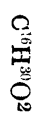
Tylin Säure



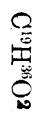
Oel Säure



Hypogäa Säure



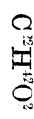
Dögin Säure



Physatöl Säure



Eruca N Brassica Säure

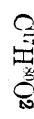


三、 $C^nH^{2n-4}O^2$ 集成ノ酸類

Lain öl Säure

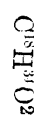


Elaömyrgaein Säure



四、 $C^nH^{2n-2}O^2$ 集成ノ酸類

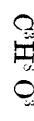
蓖麻油酸
Ricinus öl Säure



B 亞爾箇保兒類

一、 $C^nH^{2n+2}O^3$ 集成ノ亞爾箇保兒類

癪哩設林
Glycerin



二、 $C^nH^{2n+2}O$ 集成ノ亞爾箇保兒類

(依的兒)

Etylalkohol

 $C_{18}H_{38}O$ Cerylalkohol 及 Isocerylalkohol $C_{27}H_{56}O$

Okadekryalkohol

 $C_{19}H_{38}O$ Myristylalkohol (Myristylalkohol) $C_{20}H_{40}O$

三、芳香體ノ亞爾箇保兒類

Cholesterolin

 $C_{26}H_{44}O$

Isocholesterin

 $C_{26}H_{44}O$

A 酸 類

脂肪酸ノ所在及性質

所在、上ニ列記サレタル脂肪酸類ハ決シテ全量ニ於テ脂肪酸類ノ組織ヲ成スモノニ非ズ即チ炭素原子ノ奇數ヲ含有セル脂肪酸 (Isovalerlein Säure, Pelargon Säure, Isocetin Säure, Margarin Säure, Mandulin Säure.) ノ現出ハ極メテ稀ニシテ概テ僅ニ二三脂肪ニ限ルモノ、如クナレモ偶數ノ炭素

原子ヲ有スル脂肪酸ヨリ成レル脂肪ハ多キガ如シ就中其量ノ夥多ナルハ軟脂肪、硬脂肪、及油酸 (他ノ脂肪ニアリテハ亞麻仁油酸) ニシテ彼ノ脂肪ノ多クハ右酸ノ倔俚設林依的兒ノ混合物ガ其主成分ヲ成スガ如シ尤モ其他ニ屢々下級脂肪酸ノ倔俚設利奴ヲ含有スト雖モ其量ハ實ニ僅微ニ過ギザルナリ故ニ軟脂酸硬脂酸及油酸ヨリ多量ノ他ノ脂肪酸ヲ含有スル或ル脂肪ニ於テハ其性質多分ハ全ク特有ニシテ即チ次ニ示スガ如シ

牛酪酸ハ倔俚設林依的兒 [「ブチエリオン」 (Butyriu)] トシテハ稍多量 (大約二プロセント) ニ牝牛

ノ牛酪中ニ現在ス

「イソ」纈草酸 (Isomalerian Säure) ハ傀儡設林ト結合シテ海豚脂肪中ニ存ス

「カプロン」酸 (Capron Säure) ハ「イソ」ブチエール「醋酸」ト「カプロイーン」(Caproin)ヲ構成シ牛酪及柯々阿油ノ成分ヲナス但シ右「品」中ニハ其他尙ホ「カプリエール」酸 (Capryl Säure) 及「カプリーン」酸 (Caprin Säure) ガ「カプリユリー」及「カプリーン」トナリテ存在ズルモノナリ若シ或ル脂肪中下級脂肪酸「牛酪酸」「カプロン」酸「カプリエール」酸「カプリーン」酸ノ傀儡設利奴ノ總量一乃至二「プロセント」ヲ超加スル時ハ其脂肪ハ是レテ特別ナル徴候トシテ其鑑識ニ要スルヲ得即チ右酸ノ傀儡設利奴ヲ含有スルモノハ牝牛ノ牛酪ニ在テハ大約八「プロセント」椰子實ノ脂ニアリテハ四乃至五「プロセント」ナリトス

「ラウリン」酸 (Laurin Säure) ノ傀儡設利奴「ラウリン」(Laurin) 又ハ「ラウロス」テアリー」(Lanostearin) ハ「Fungkalak」脂ノ主成分ニシテ其他ハ「ロールベール」脂中ニモ多量ヲ含有セラル、モノナリ

肉荳蔻酸 (Myristin Säure) ハ「ミユリスチーン」(Myristin) トシテ肉荳蔻脂中ニ存ス

「マルガリー」酸 (Margarin Säure) ハ「屍體蠟」中ニアリ

「アラヒーン」酸 (Arachin Säure) ハ傀儡設利奴「阿拉賓」(Arachin) トナリテ地荳油中ニアリ

又「メドल्लीン」酸 (Middlin Säure) ハ其僣俚設林依的兒トナリテ牡牛ノ脊髓中ニ「ペーヘン」酸 (Behen Säure) ハ山葵油中ニ「ヒエナ」酸 (Hiëna Säure) ハヒューエイナ、ストリアタ、(Hyena striata) ノ (Analdritschen Tausse) 中ニ發見サル

「チエロチーン」酸 (Cerotin Säure) ハ遊離ノ状態ニ於テ蜂蠟、又タ「チエロチーン」酸「チエチュール」依的兒トナリテハ支那蠟ノ主成分ヲ成ス

「テタンロー」酸 (Theobroma Säure) ハ柯々阿脂中ニ、油酸列ノ「チグリン」酸 (Tiglin Säure) ハ巴昔油中ニ「ヒエホケース」酸ハ花生油中ニ「フェゼット」油酸ハ鯨蠟中ニ Dögling 脂中ニ又芥子酸 (ErUCA Säure) ハ蔓薑油中ニ現在ス

亞麻仁油 (Seinol Säure) 酸ノ僣俚設利奴ハ亞麻仁油并ニ他ノ乾燥性油類ノ、蓖麻子油酸 (Ricinis oi Säure) ノ僣俚設利奴ハ蓖麻子油ノ主成分ヲナス

脂肪酸ノ熔融点。 醋酸列ノ第一ノ系統ニ於テハ「カプリン」酸ニ至ル迄、其他ハ「テュグリング」酸、亞麻仁油酸、蓖麻子油酸ハ常温ニ於テ液體ヲ成セ他ハ皆固形體ナリ今左表ニ於テ緊要ナル酸類ノ熔融点ヲ列舉ス。

Caprin Säure	31. 3°c	Behen Säure	73. 0°c
Laurin Säure	43. 6°c	Ceratin Säure	78. 6°c

Myristin Säure 53, 8°c Theobroma Säure 72, 2°c
 Palmitin Säure 62, 0°c Tiglin Säure 64, 5°c
 Stearin Säure 69, 2°c Hyko-gäa Säure 53, 0°c
 Arachin Säure 75, 0°c Phlysetäl Säure 30, ° c
 Eruca Säure 33-34°c Eläomargarin Säure 48, 5°c
 沸騰點。天然ノ脂肪中屢顯ハル可キ脂肪酸ニシテ常氣壓ニ於テ分解セズシテ揮發スヘキモノハ
 次ノ如シ

Butter Säure 162, 3°c

Capryl Säure 236°c

Capron Säure 大約 200°c

Caprin Säure 268-270°c

此他ハ若シ常氣壓ニ於テ單ニ蒸餾スル時ハ凡テ分解スルカ少クモ其一部分ハ免レザルモノナリ然
 レモ輕氣壓ニ於テスレバ其多分ハ分解セスシテ揮散シ又過熱水蒸氣ト共ニハ餾取スルヲ得可シ
 次ノ酸ノ百^{m.m.}ノ壓ニ於ケル沸騰點ハ左ノ如シ

Laurin Säure 225°c

Palmitin Säure 271, 5°c

Myristin Säure 250, 0°c

Stearin Säure 291, 2°c

常氣壓ニ於テ分解セスシア蒸餾ス可キ酸ヲ揮發性ト其他ヲ不揮發性脂肪酸ト云フ

脂肪酸類ノ溶解性。一般に $C_{11}H_{23}O_2$ ナル記號ヲ有スル醋酸列ノ第一系統ハ總テノ比例ニ於テ水ト混和スレ_レ「カプローン」酸ハ水中ニ溶解スレ_レ已ニ混和セス其他ハ極メテ急ニ其溶解性ヲ減スルモノナリ又タ「カプリユール」酸ハ已ニ其溶解ニ四百分ノ沸騰水ヲ要スレ_レ冷ユレハ再ビ殆_ンド全ク拆出シ「カプリー_ン」酸及「ラウリー_ン」酸ハ沸騰水ト雖モ極メテ僅微ニ溶解スルニ止リ其他ノ脂肪酸ニアリテハ全ク水中ニ不溶解性トナリ故ニ其「カプリー_ン」酸ニ至ル迄ノ酸類ハ之レヲ溶解性脂肪酸ト稱シ「ラウリー_ン」酸ハ其溶解性及不溶解性脂肪酸、中間ノ限界ニ立ツモノナリ揮發性脂肪酸ノ水製溶液ヲ充分久シク時トシテハ蒸散セル水ヲ補ヒツ、蒸餾スル時ハ其脂肪酸ハ全ク蒸餾物中ニ轉移シタルモノニシテ其酸ノ沸騰點愈高ケレハ倍容易ナルガ如シ_レ飯令ヘハ牛酪酸及「カプローン」酸ノ混合物ニ付テハ後者ハ最初ニ蒸餾シ來ルガ如シ。

熱亞爾箇保兒中ニハ總テノ脂肪酸ハ溶解ス。

脂肪酸溶液ノ反應。脂肪ノ工業的試験ニ於テハ屢々遊離脂肪酸ノ容量的定量ガ施行サル、事アリ故ニ各脂肪酸ガ種々ノ標示藥ニ向テ如何ニ働クカヲ知ルハ必要ナル事ナリトス

今日分拆家ノ需用ニ應スル幾多ノ標示藥中脂肪及其生産物ノ分拆ニ對シテハ「フェノール」フタルイン」及「メチェール」橙黃 (Tropöolin o o) テ撰ベリ爲メニ刺屈謨斯丁幾若クハ其代用品トシテ近時稱用サル、「ラクモイド」(Lackmoik)ヲ貯藏スルモ全ク充分ナリト

「メチユール」橙黄ハ絹絲ノ染料トシテハ多ク用ヒラル、「アツオ」色素ニシテニ「アツオ」偏蘇兒硫基酸 (Diazabenzal-sulfonate) $C^6H^4-N \begin{matrix} \diagup \\ \diagdown \end{matrix} SO_2 \parallel N$ 及ニ「ソチユール」亞尼林ヨリ製セラル、モ、ナリ而シテ本品ハ實ニ「メチユール」亞尼林ノ「アツオ」偏蘇兒硫基酸ノ安母紐謨鹽ニシテ次ノ如キ記號ヲ有ス。



此者ハ水中ニハ黄色ヲ以テ溶解シ其溶液ニ強酸類ヲ加フレハ美赤色ニシテ其層ノ厚キキハ黄赤色ヲ現ハシ且 $O^6H^4(SO_3H)-N=N-C^6H_4N(OH^3), HCl$ ナル記號ヲ有ス而シテ其極メテ稀薄ナル溶液ニ於テ中性溶液ノ帶黄白色ヨリ赤色ニ變化スルハ極メテ銳敏ナリトス

炭酸ノ如キ弱酸ハ決シテ赤變セス故ニ炭酸鹽ヲ「メチユール」橙黄ヲ用ヒテ過酸ノ爲メニ遊離シタル炭酸ヲ豫メ煮沸ニ依テ驅除セザルモ容量的ニ定量スルコトヲ得但シ此標示藥ハ其他特ニ鑛酸ノ溶量的定量ニ適スルモノナリ。

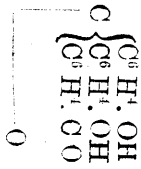
水中可溶性脂肪酸ノ過剩ハ此色素ノ溶液ヲ亦タ赤變ス然レモ亞爾加里ヲ用井テ容量的ニ定量セントスルモ其變化ハ銳敏ナナラズ而シテ遊離脂肪酸ノ尙ホ多量が存在スト雖モ酸性ノ反應ハ消滅スルモノナリ故ニ此目的ニ向テハ「メチユール」橙黄ハ用ユ可ラサルモノナリ。不溶性脂肪酸飯令ヘバ硬脂酸及油酸ノ如キ其亞爾箇保兒性溶液ニ於テハ毫モ變化ヲ顯サズ即チ斯ノ如キ酸類ト遊離

硫酸トノ混合物ニ於テハ華攝林及「チユルキシロート」中ニ含有セラル、如ク前者ノ存在ニ障得セラズ能ク此標示藥ヲ用ヒテ後者即チ硫酸ヲ容量的ニ定量スルヲ得可シ。

此標示藥ノ溶液ヲ製スルニハ其〇、二及至〇、四「グラム」ノ色素ヲ一「リール」ノ水中ニ溶解スベシ。

「フェノールフタレン」〇、二二百五十「グラム」ノ無水「フタル」酸 (Phthalanhydrid) $C_6H_4-CO \setminus \bigvee \bigcirc$ ヲ二百「グラム」ノ濃硫酸ニ溶解シ五百「グラム」ノ「フェノール」(C_6H_5OH)ト共ニ十乃至十二時間百十五乃至百二十度ニ熱シテ製スルモノニシテ即チ其熔融セルモノヲ沸騰水中ニ注加シ且「フェノール」臭ノ消失スルニ至ル迄水ヲ加ヘテ煮沸ス可シ殘渣ハ標示藥トシテ應用スルニハ充分純粹ナルモノトス。

「フェノールフタレイン」ハ次ノ記號ヲ有ス



此標示藥溶液ハ〇、五乃至一「グラム」ノ「フェノールフタレイン」ヲ一「リール」ノ酒精中ニ含有スルモノニシテ其溶液ハ帶黃色ヲ呈シ之レニ極メテ少量ノ亞爾加里ヲ加フレバ其ニ適應ス可キ鹽

類ヲ構成シテ赤變ス而シテ此鹽類ハ不溶性ノ脂肪酸ヲ亞爾箇保兒性溶液中ニ於テ極メテ銳敏ニ「フェノールフタレイン」ヲ以テ定量セシムル様微弱ノ酸ニ由テ全ク分解セラル、モノナリ。又「フェノールフタレン」ハ水ニ可溶性ノ脂肪酸ヲ容量的ニ定量スルニ際シテ「ラクムス」ノ如ク用ヒラル、モノナリ但シ此刺屈謨斯標示藥ハ同ジ目的ニ向ツテハ尙ホ一二ノ人ヨリ稱用セラル、コトアリ。

刺屈膜斯、既明ノ記載ニ從フテ製セラレタル本丁幾ハ脂肪分拆ニ於テハ揮發性脂肪酸及鑛酸、亞爾加里、炭酸鹽等ノ容量的定量ニ用ヒラル、モノニシテ「レツヘンベルグ」(Rechenberg)氏ノ說ニ從ヘバ脂肪酸(殊ニ牛酪酸ノ亞爾加里及亞爾加里土類鹽ハ強亞爾加里性反應ヲ以テ水中ニ溶解スト雖モ余ハ右ヲ確認スル能ハバリキ而シテ牛酪酸ハ刺屈謨斯丁幾ヲ以テ極メテ能ク容量的ニ定量セシムレト其變色實ニ徐々ナリトス然レト其溶液ガ純青色トナルニ至ルベキ容量的定量ノ終點ハ綿密ニ認識セラル、モノナリ

「ラクモイド」ハ「レゾルチーン」ヲ硝酸那篤留謨ト共ニ熱スルヲニ由テ得ラル、モノニシテ即チ其熔融物ノ溶液ヨリ鹽出法ニ由テ那篤留謨化合物トナリテ拆出スエ、メルク(E. Merck)氏ハ目下「ダルムスタット」市ニ於テ分拆用ノ目的ニ供スル純品ヲ製造シ居レリ然レト其化學的構造ハ尙ホ不明ナリト而シテ「トムソン」(Thomson)氏ニ從ヘバ本品ハ亞爾加里、安母尼亞、亞爾加里土類

及鑛酸ノ容量的定量ニ用井ラルト雖モ脂肪酸類ノ定量ニハ能ハズ何トナレバ其中性鹽ハ既ニ青色ヲ喚起スレハナリ

1 $C^{11}H^{21}O_2$ 列ノ酸類

牛酪酸 (Butter Saure) $[C^{11}H^{21}O_2]$

牛酪酸ハ常温ニ於テ流動體ヲナシ其新ダニ留取セラレタルモノハ醋酸様ノ臭ヲ有シ又稀薄ナルモノハ極メテ鋭敏ニ酸敗セル牛酪ノ如キ臭ヲ放ツ本品ハ百六十二三度ニ於テ沸騰シ零下十九度ニ於テ葉狀ニ凝固ス而シテ其比重ハ攝氏十四度ニ於テ〇、九五八ノ比重ヲ有ス又タ本品ハ水中ニハ極メテ容易ニ溶解スレモ之ニ格魯兒加爾漫謨若クハ食鹽ヲ加フレハ油滴トナリテ拆出ス但シ亞爾簡保兒及依的兒中ニハ隨意ノ比例ニ於テ混化ス

牛酪酸ノ溶液ハ刺戟性酸味ヲ有シ刺屈謨斯ヲ赤變シ且微弱亞爾加里性ノ「フェノールフタレイン」溶液ヲ褪色ス又タ「メチユール」橙黃ハ其鹽類ヲ含有セザル本品ノ溶液ヲ赤色ニ染ム。

牛酪酸ノ稀薄水性液ヲ蒸餾スルキハ本品ハ全ク蒸餾物中ニ留出ス但シ其稀薄ノ度甚シカリシ場合ニ於テハ能此目的ヲ迅速ニ達セントスレハ豫メ那篤倫ヲ以テ中和シ蒸發ニ由テ濃厚トナシ后稀硫酸ヲ加ヘテ蒸餾ス可シ。濃厚ナル牛酪酸ハ亞爾簡保兒及濃硫酸ト共ニ温ムルキハ牛酪酸「フチエールエステル」ヲ生ズ但シ是レハ其極メテ微量ニ在テハ甚タ佳快ナル鳳梨ノ香氣ニ依テ識別セラ

ル可キモノナリ若シ本品ヲ此反應ノ助ケニ依リテ其稀薄溶液中ヨリ驗明セントスルキハ先ヅ那篤倫ヲ以テ中和シ、乾燥ニ至ル迄蒸發シ而シテ其殘渣ヲ亞爾箇保兒及硫酸ト共ニ温ムルニアリ。

又牛酪酸含有ノ脂肪ヲ強亞爾箇保兒及苛性加里ヲ以テ鹵化スルノ際ニハ牛酪酸ノ一部分ハ依的兒化スルモノナリ。

牛酪酸ノ鹽類ハ銀、亞酸化汞、及鉛化合物ヲ除クノ外ハ容易ク水中ニ溶解シ其亞爾加里鹽ハ潮解性ヲ有ス。

本品ノ石灰鹽〔 $(C^{18}H^{31}O_2)_2Ca + H_2O$ 〕ハ常温ニ於ケルヨリモ温ニ於テハ遙カニ其微量ヲ溶解スルノ意外ナル關係ヲ現ハシ且其攝氏拾四度ニ於テ製セラレタル飽和溶液ハ三、五分ノ水中ニ壹分ノ鹽ヲ含有ス而シテ此溶液ヘ既ニ三十度ノ加温ニ依テ沈澱ヲ生シ煮沸ニ於テハ其鹽ノ殆ンド全部ヲ拆出ス然レモ冷却スレハ再ビ溶解ス又タ本品ノ石灰鹽ハ亞爾箇保兒ニ溶解ス。

牛酪酸々化銀〔 $(C^{18}H^{31}O_2Ag)_2$ 〕ハ十四度ノ二百分中ニ溶解ス但シ硝酸々化銀及牛酪酸亞爾加里ノ甚シク秘薄ナラザル溶液ヲ混和スルキハ本品ハ其溶液ノ稠度ニ從ヒ絮狀或ハ光輝アル鱗片狀トナリテ拆出ス。

「カプロン」酸〔Capron Säure〔 $C^{16}H^{32}O_2$ 〕〕

同質異性ノ「カプロン」酸ニ付テハ「インブチール」醋酸が脂肪中ニ顯ワレ而シテ此物ハ水ト混

和セザレ_レ其中ニ溶解スベキ液體ニシテ臭ヲ有シ其比重ハ攝氏二十度ニ於テ〇、九二五ヲ有シ零下十八度ニ於ケルモ猶凝固セズ但シ其沸點百九十五、七度ナリ。

「カプリユール」酸 Capryl Säure $[C^8H^{16}O^2]$

「カプリーン」酸モ亦タ流動體ナレ_レ攝氏十二度ニ冷却スレバ十六、五度ニ於テ溶融スベキ結晶性物質ニ凝固ス、又本品ノ沸點ハ二百三十六度乃至二百三十七度ニシテ其比重ハ攝氏二十度ニ於テ〇、九一四ヲ有シ且甚シキ汗臭ヲ放散ス本品ノ一分ヲ溶解スルニハ四百分ノ沸騰水ヲ要ス。

「カプリーン」酸 Caprin Säure $[C^{10}H^{20}O^2]$

「カプリーン」酸ハ常溫ニ有テハ細微ノ小葉片ヲナシ三十一、三乃至十一三、四度ニ於テ溶融シ且山羊ノ如キ臭ヲ散放ス其熔融セルモノ、比重ハ三十七度ニ於テ〇、九二ヲ有ス、又タ本品ハ二百六十八度乃至二百七十度ニ於テ沸騰シ其一分ハ大約千分ノ沸騰水中ニ溶解ス。遊離酸ノ溶解性ハ牛酪酸ヨリシテ「カプリン」酸ニ至リ漸々其度ヲ減ズルガ如ク其鹽類モ亦タ常ニ難溶性ナレ_レ特リ其亞爾加里鹽ハ容易ク溶解ス而シテ其難溶性ノ例トシテ石灰鹽ヲ舉ゲンニ牛酪酸ノ全鹽ニアリテハ三分、五分、「カプロン」酸ニアリテハ三十七分、「カプリユール」酸ニアリテハ二百分ノ常溫水ヲ要スレ_レ「カプリン」酸ノ全鹽ニアリテハ多量ノ沸騰水中ニ於テ初テ溶解スルカ如シ。

「ラウリーン」酸 Laurin Säure $[C^{12}H^{24}O^2]$

「ラウリン」酸ハ $C_{11}H_{21}O_2$ 列ニ於ケル常氣壓ニ於テ殆ド全ク分解セズシテ揮發シ得ベキモノ、
第一ニ屬スル固形體ニシテ其溶融セザルモノハ鱗片狀ヲナセ且酒精中ヨリ結晶セシメタルモノハ
針狀ナリ

本品ハ四十八、六度ニ溶融シ攝氏二十度ニ於ケル比重ハ〇、八八三ナリ而シテ多量ノ沸騰水ハ其大
量ヲ溶解ス又タ本品ハ水蒸氣ト共ニ蒸餾セシムレ且全列中ノ次ニ位セルモノ即チ「ミユリスチー
ン」酸ハ只ダ其痕跡ヨリ僅ニ多量ヲ溜出セシムルニ止ル

「ミユリスチーン」酸 Myristin Säure $[C_{14}H_{28}O_2]$

「ミユリスチーン」酸ハ頗ル「ラウリン」酸ニ類似シ水中ニハ全ク不溶性ナレ且冷亞爾簡保兒及依的
兒中ニハ難溶性ナリ而シテ本品ハ五十三、八度ニ於テ溶融シ其溶融シタルモノ、比重ハ〇、八六
二二ナリ。

軟脂酸 Palmitin Säure $[C_{16}H_{32}O_2]$

軟脂酸ハ細美ナル把束形ニ集合セル針狀或ハ其溶融及凝固セシメタルモノハ眞珠樣光澤ヲ有スル
鱗片狀ノ結晶性物質ヨリ成リ無味無臭ニシテ攝氏六十二度ニ溶融シ其溶融セルモノハ〇、八五二
七ノ比重ヲ有ス本品ハ大約攝氏三百五十度ノ温ニ於テ其大部ハ分解セズシテ蒸餾スレ且百 mm ノ低
氣壓ニ逢フトハ二百六十八、五度ニ沸騰スト溶融セル軟脂酸ヲ紙上ニ致スカ或ハ其亞爾簡保兒性

若クハ依的兒性溶液ヲ紙上ニ蒸散セシムル時ハ茲ニ脂肪斑点ヲ生ゼシム。

軟脂酸ハ冷亞爾箇保兒中ニハ難溶性ナリ故ニ百分ノ無水亞爾箇保兒ト雖モ僅カニ九、三二分ヲ溶解スルニ過ギズ然レモ沸騰亞爾箇保兒中ニハ極メテ容易ニ溶解ス由テ此溶解劑ヨリハ能ク再結晶セシムルヲ得但シ亞爾箇保兒性溶液ハ酸性ヲ反應ス

稀酸類ハ軟脂酸ニ對シテ作用ヲ有セザレモ濃硫酸ハ之レヲ溶解ス然レモ之ヲ稀釋スレバ再ビ變化セズシテ拆出ス沸騰濃硝酸ハ本品ヲ極メテ徐々ニ溶解ス又タ本品ノ鹽類ハ硬脂酸鹽類(下ニ出ス)ニ極メテ類似スレモ只タ僅ニ易溶性ナリトス

「マルガリーン」酸 Margarin Sature [$C^{17}H^{33}O^2$]

眞ノ「マルガリーン」酸ハ工業的ニ應用サル、脂肪中ニハ顯ル、コナシ然レモ軟脂酸及硬脂酸ノ混合物ハ工業上所々ニ「マルガリーン」酸トシテ、又タ硬脂及軟脂ノ混合物ハ「マルガリーン」トシテ顯ハル、モノナリ「マルガリーン」即チ「チレチマルガリーン」(Oleomargarin)トハ其他又タ人工的牛酪製造ニ用ヒラル、軟脂硬脂及「オレイーン」ヨリ成レル脂肪ヲ云フナリ

硬脂酸 Stearin Sature [$C^{18}H^{36}O^2$]

亞爾箇保兒ヨリ結晶セシメタル純硬脂液ハ白色ノ光澤アル葉片ヨリ成リ六十九、二度ニ於テ全く無色ノ液ニ溶融シ冷ユレハ再ビ結晶性透壁ナル物質ニ凝固ス本品ヲ三百六十度ニ熱スレハ其一部

分ハ分解シテ沸騰ヲ始ムレモ低氣壓ニ於テハ變化セズシテ蒸餾ス但シ百 mmノ壓ニ在テハ二百九十一度ニ於テ沸騰ス又タ本品ヲ過熱水蒸氣ト共ニ蒸餾スレバ外觀的ニノミ全ク變化セスシテ蒸餾スレモ脂肪酸ヲ工業的製法ノ蒸餾ニ於テ得タル經驗ニヨレバ此際其一小部分ハ分解シテ $C_{11}H_{21}O_2$ ナル列ノ固體炭化水素ニ變スト

本品ノ比重ハ十一度ニ於テハ正ニ水ニ等シト然レモ以上ノ温ニ逢フモハ水面ニ浮揚ス何トナレバ本品ハ熱ニ遇フモハ水ヨリモ遙ニ膨脹スルガ故ナリ又タ本品ノ六十九、二度ニ於テ溶融セラレタルモノハ〇、八四五四ノ比重ヲ有ス。

硬脂酸ハ無臭無味ニシテ脂肪様ニ感觸セス而シテ溶融若クハ溶解セザルモノヲ紙上ニ致ス時ハ脂肪斑点ヲ生ス」

本品ハ水中ニハ溶解セザレモ熱亞爾箇保兒中ニハ容易ク溶解ス而シテ冷亞爾箇保兒ニ對シテハ軟脂酸ニ於ケルヨリモ猶難溶性ナリ又タ本品一分ハ四十分ノ無水亞爾箇保兒中ニ溶解シ且ツ依的兒ニハ容易ニ溶解ス其他攝氏二十三度ニ於ケル一分ノ便蘇兒ハ〇、二二分、硫化炭素ハ〇、三分ノ本品ヲ溶解ス

硬脂酸鹽類。硬脂酸及他ノ不揮發性脂肪酸ノ鹽類ハ石鹼ト稱セラル而シテ其亞爾加里鹽ハ水中ニ溶解スレモ其他ノ鹽類ニ在テハ殆ゾド或ハ全ク不溶解性若クハ難溶性ナリ

亞爾加里鹽類。硬脂酸ヲ炭酸加留謨若クハ那篤留謨ト共ニ煮沸スル時ハ炭酸ハ驅逐セラレテ硬脂酸鹽類ヲ構成ス而シテ速ニ此目的ヲ達セントセバ炭酸鹽ノ煮沸液ヲ亞爾箇保兒性溶液ニ加ヘ其溶液ヲ蒸發シ其殘渣ヲ亞爾箇保兒中ヨリ結晶セシムルニアリ但シ亞爾加里鹽類ハ最モ純粹ナル形狀ニ於テハ結晶ス可キモノナリ、

硬脂酸亞爾加里鹽ハ水ニ對シテ他ノ脂肪酸ノ亞爾加里石鹼ニ於ケル如キ關係ヲ現ワセリ即チ彼レハ冷水ニハ稍々難溶性ナレトモ煮沸スレハ甚ダ多量ナラザル水中ニ溶解シテ透明トナリ（石鹼膠液冷レバ混濁シテ粘靱ノ物質トナル又タ此鹽類ハ多量ノ水ニ逢フモ透明ナル液ヲナサズ振盪スレバ稍々久シク保持ス可キ泡沫ヲ甚シク生ズベキ溷濁ノ液ヲ生ズベシ而シテ其稀薄溶液ノ溷濁スル所以ハ其中性鹽ノ酸性鹽及遊離ノ亞爾加里ニ分解スルニ基クモノナリ。

硬脂酸鹽類ハ食鹽ニ逢フトモハ其溶液ヨリ拆出サル故ニ其加留謨鹽ハ格魯兒那篤留謨ヲ以テ反覆鹽出法ヲ施セハ全ク那篤留謨鹽ニ變化サル、モノナリ

亞爾箇保兒ハ温ニ於テハ硬脂酸亞爾加里ヲ容易ニ溶解スレトモ濃厚液ヲ冷却スレハ其石鹼ハ多分膠樣ニ拆出ス然レモ久シク放置スレバ結晶性ニ變化ス又タ硬脂酸亞爾加里ハ依的兒、石腦油依的兒等ニハ溶解セズ。

硬脂酸加留謨 $C_{17}H_{33}COOK$ ハ脂肪樣ノ光澤ヲ有スル結晶ニシテ六、六分ノ沸騰亞爾箇保兒ニ溶解

ス而シテ熱水性溶液ニ多量ノ水ヲ注加スル時ハ水ニ不溶性性ニシテ眞珠樣光澤ヲ有ス鱗片狀ノ酸性硬脂酸加儗謨 $C^{14}H_{15}KO_2$ 、 $C^{15}H_{16}O_2$ ヲ沈降セシマ。

硬脂酸那篤儗謨ハ加儗謨鹽ニ極メテ類似シ而シテ光澤ヲ有スル葉片ヨリ成ル。

硬脂酸安母紐謨ハ其水性溶液ヲ温ムル時ハ安母尼亞ヲ分離シテ酸性鹽ニ變化ス。

硬脂酸ノ他ノ鹽類ハ其那篤儗謨鹽ノ水性溶液ニ金屬鹽ヲ加ヘテ沈降セシムルカ若クハ其亞爾儗保

兒性溶液ニ製セントスル金屬ノ醋酸鹽ヲ加ヘテ得ルニアリ。

硬脂酸加爾叟謨、斯篤倫丟謨稜儗謨ハ皆結晶樣ノ沈渣ヲ形ス麻偏涅漫謨鹽モ亦タ結晶樣ニ沈降ス而シテ此物ハ熱亞爾儗保兒ニハ其ヨリ再結晶セシメ得ル如ク溶解スレモ其ニ反シテ冷亞爾儗保兒中ニハ殆ンド不溶性性ナリ。

重金屬ノ鹽類ハ多分ハ無晶形ナリ則銀、銅及鉛鹽類ハ然リトス而シテ其鉛鹽ハ百二十五度ノ熱ニ逢フモ分解セズシテ溶融ス

硬脂酸(又タ軟脂酸)ノ定量法ハ其不溶性鹽類ガ水ヲ以テ洗滌スルニ際シ其一部分分解スルニ基クモノニシテ例之バ今其稜儗謨鹽ヲ洗滌スルモ稜儗謨ハ溶液中ニ移轉スレモ殘渣ハ遊離ノ脂肪酸ヲ含有ス由テ是レヨリ亞爾儗保兒ヲ以テ浸取スルヲ得可シ但シ極メテ綿密ナル試驗ニ於テハ脂肪酸ハ決シテ其鹽類ノ形狀ニ於テ秤量セズ其ヨリ遊離セシメタルモノヲ以テスベシ。

「アラキーン」酸 Arachin Säure $[C_{27}H_{54}O_2]$

「アラヒーン」酸ハ七十五度ニ於テ溶解シ、冷亞爾箇保兒ハ極メテ難溶性ナレモ沸騰シタルモノ、中ニハ容易ニ溶解ス然レモ其際一部分ハ其ノ「エチユールエステル」ニ變化ス故ニ本品ヲ亞爾箇保兒ヨリ再結晶セシメントスルニハ可及的其損失ヲ避ケンガ爲メ恰モ其全量ガ溶解スルニ足ルヘキ程度ニ煮沸ス可シ、九十「プロセント」ノ酒精百分ハ十五度ニ於テ本品ノ〇、〇二二分、二十度ニ於テハ〇、〇四五分ヲ溶解ス但シ硬脂酸ハ遙ニ容易ニ溶解ス。

「チエロチーン」酸 Cerotin Säure $[C_{27}H_{54}O_2]$

蜂蠟若クハ支那蠟ヨリ通常ノ方法ニ從フテ製セラレタル粗製「チエロチーン」酸ハ蠟様ノ物質ヲ成シ其熔融點ハ七十八乃至八十二度ノ間ニアリ又タ本品ハ亞爾箇保兒ニ溶解スレモ冷ユレハ細微ナル一部ハ正直、一部ハ彎曲セル針狀ニ凝出シ實ニ一二時間ヲ經過スレハ其濃過セシ液ニ水ヲ注加スルニ毫モ固有ノ沈澱ヲ生ゼズ只僅微ニ濁濁スルニ止ル如ク悉ク濾出スルモノニシテ則チ之レニ由リテ軟脂酸及硬脂酸ヨリ區別スルヲ得ヘシ又本品ヲ炭酸那篤箇保兒若クハ稀薄ナル那篤箇保兒ト共ニ煮沸スルキハ其内ニ溶解セズト雖モ沸騰亞爾箇保兒性加里ハ能ク彼レヲ溶解ス然レモ冷ユレハ加留鹽溶液ハ全ク凝固スルモノナリ (Barb. 1) 又タ本品ハ其亞爾箇保兒溶液ヨリ「フェノールフタレイン」ヲ以テ容量的ニ定量セシムルヲ得可シ (Schallejew) 氏ニ由レバ「チエロチーン」

「酸ハ單純ナル物質ニアラズシテ未ダ蠟種ノ分拆ニ於テ現ワレザル所ノ種々ナル酸類ノ混合物ナリト

(未完)

左は國家醫學會席上に於ける野田防疫課長の演舌筆記と抄録せるものなり (編者)

●牛莊「ベスト」に就て

予は牛莊の「ベスト」病況視察の爲め十一月一日を以て彼地に着し爾來足を止むること月餘聊か得る所あるを以て今茲に其概要を報せん、吾人のいふ所の牛莊は所謂營口なり營口之遼河の下流南岸にあり河口を隔ること十數哩河は泥水を以て充たさるゝと雖も船舶の通行停泊極めて便なり然れども毎歲十一月おは既に堅氷と以て閉され翌四月に至り開河す、營口はもと茫たる平原一部おして一面河に向ひ三面障壁を繞す、四五千の戸數六萬計の人口を有し二萬有餘の定期出稼人あり、氣候と大陸氣候に屬し寒暑共に甚劇なり、家屋は概ね粗製煉瓦若しくは土壁にして木造は更におし而して多は長屋造なり、土人は一般密居の風あり一家に數十人を入れ稀には三百人に及ぶものあり最も甚だしきお至りては露宿するさへあり、道路と頗る狹隘おして朔風の時一種の臭氣を帶ふる紅塵を揚ぐ、民家は凡て便所と具へせ況や共同便所あることなし、市民は隨所路傍に排便す、彼等の衣服は頗る粗にして汚穢食物亦然り、實に出稼人の多くと例の塵芥の一層を被る露店の食

物を以て常食とせるなり、用水は最も不便にして堀井の如き全市僅に二三のみ、普通用ひらるゝものは河水若しくは雨水の溜池より供給せらる、住民の病に罹るや醫を聘して診を乞ふのこともなく、症状を訴て薬餌と購ふお過ぎざるなり、又其死するや一定の制裁あることなく各自隨意お之を棺に納め土人之障壁外の原野お三尺許下げ之と蒙り覆ふお土を以てす、故お稍時を經たるものは枯骨顯然たり、出稼人は寺院或は會館お藏し時を待つて郷里お送還す、牛莊と交通最も頻繁なる本邦津津は神戸にして門司、長崎之よ次ぐ、而して輸入物の大部分は豆類と豆糟（一名油糟）なり、予は貿易上の關係の爲め此二品に就て取調べしよ、豆類は牛莊の産よ非ざして悉く近傍より集まりたるものなり、豆糟の一旦高熱に蒸熱して之を壓搾器にて強壓し油を取りたる残渣あり故に恰も熱氣消毒を施したるが如き價値を有せり、本年「ペスト」流行の初發と見做さるゝ、七月十一日にして其以前若しくは前年にも流行せしや否や詳かならず、本病の腺腫を發して死するを以てや土人は名づけて疔瘡病カクセビといふ、蓋し疔瘡と腫物の義なり、初發患者發生后各所お之と見しを其以前に遡りて系統を調ふるに茫として知るべからざ、最も猖獗を極めし、八、九兩月にして爾後漸次衰頹せり、棺販賣店主の云ふ所よれば、棺の販賣數と全市を通して二三千なり、然るお本年と五千有餘の多きお達せしと、知るべし或る原因は二千有餘の死を増せしと患者は五名の露兵と除くの外他は皆灣人特に過半と出稼人あり、土人のいふ所よれば、流行お先ち夥だしと

鼠及び豚の斃るゝを見たりと留意せざる彼等か眼み瞶るゝの度に於てありしは如何に其數の多かりしを証するに足らん、本病蔓延の原因は之を確言すること能くされども、前に述べたる所により、不潔の死骸並に用水よあること既に明なり、檢疫並に防疫に就て清國政府の冷淡たる延て各國領事の盡力により、衛生局なるもの設置せられ、又本邦醫師の招聘せられたる等は既み人の知る所なり、今や衛生局の嚴重なる督促の下に漸く棺の送還を禁じ、市街に大清潔法を施し、檢疫巡查及び懸賞を以て患者を搜索し、又幻燈に講話に豫防の必要を説くの運に到れり、劇烈に流行しつゝありし本病が而かも非衛生的の土地にありて、如何にして現今の如き衰頽を來せしか其原因を説明すること頗る困難なれども、卑見によれば次の三因に歸することを得ん。時既に封河期お際し市民の半ばをなせる不潔なる出稼人の悉く郷里に歸りしこと其一なり。不完全なかゝ衛生法施行の効なるへし、之れ其二。寒氣の甚劇は第三の原因ならん。云々。(昨十二月二十一日、國家醫學會に於て)

左ニ掲グルモノハ結核免疫ニ關シ佛國留學中ナル海軍軍醫中監矢部辰三郎氏ヨリ海軍大臣へ差出シタルモノナルガ目下大ニ注意スヘキモノニツキ茲ニ官報ヨリ轉載シヌ (編者)

●結核免疫研究論文

結核ハ特種ノ傳染性病ニシテ種接シ得ク其原因タルコッホ氏菌ハ諸結核病ニ存在シテ曾テ缺ク

ルコトナシ其急性ナルト慢性ナルトヲ問ハス人獸共ニ通例死ヲ免レサルヲ以テ一般ニ不治ノ症ト
信セラル

結核ノ遺傳ハ世人ノ能ク知ル所ナリ其傳達上ニ就キテハ全ク反對セルニ説アリ一ハ結核菌ノ直達
ヲ唱ヘ他ハ間接ニ素質ヲ傳フルモノト主張ス而シテ此學說ノ差ハ遺傳ノ存在ヲ排撃スルコトナシ
抑々結核性患者ノ子ノ感受力強キハ確實爭フ可ラサル事實ニシテ結核家ノ子孫ニ所謂肺勞性胸廓
ナルモノ、存スルハ素質遺傳ノ確證ニシテ此等ノ子孫ハ強健ナル父母ヨリ出タル者ヨリ結核ニ感
染シ易シ直達傳達ノ證左ハ絶無ト謂フ可ラサルモ先ツ例外ト看做シ得ヘシ病床ニ於ケル吾人日常
ノ經驗ヲ以テスルニ結核ハ極メテ好ク類似セル傳染性病則チ梅毒及ヒ馬鼻疽ノ如ク判然タル免疫
質ヲ附與スルコトナキノミナラス病機ハ常ニ進テ死ヲ來タサ、レハ止マス加之ニ患者ノ子ニ感受
性ヲ遺傳ス又結核桿菌若クハ之ヲ含存スル物質ヲ以テ種接試験ヲ施スニ哺乳獸中明カニ免疫質ヲ
供ヘテ能ク之ヲ抵抗スルモノアルコトナシ夫レ斯ノ如ク結核免疫存在ハ不明ニシテ世上ニ殆ント
免疫不存ヲ信スルニ至ル嗚呼結核ニ對スル後天性免疫ニシテ眞ニ得ラレサルモノナレハ人畜ニ襲
延セル此恐ルヘキ厄病ヲ絶滅セントスルモ其希望ハ水泡ニ期セサル可ラスバストール氏ニ則ル接
種豫防法ト云ヒ舊新ノ「ツベルクリン」療法ト云ヒ之ニ類スル產物ノ毒素療法ト云ヒ將タ血清療法
ト云ヒ孰レモ悉ク失敗ニ歸セサル可ラス故ニ此ノ問題ヲ解釋セントスルニハ先ツ結核ニハ人工免
疫ヲ施シ得ルヤ否ヤヲ講究セサル可ラス

免疫存在ノ曙光 千八百九十年コツホ氏ハ卓越ナル「ツベルクリン」ノ發見ヲ爲スニ及テ氏ハ千八
百八十四年ニ於ケル自己ノ較著ナル學業ヲ取消シ結核ニ免疫ノ存スルコトヲ唱道シ豕鼠ニ先存
セル結核傳染ノ爾後ノ接種ニ及ホス感作アルコトヲ發明セリ即チ健康ノ豕鼠ニ接種ヲ施セハ種
接部ニ於テ動物ノ死ニ至ル迄持續スル遺瘍ヲ形成スルモ既ニ結核ニ罹リテヨリ四週乃至六週ヲ

經タル豕鼠ニ接種ヲ施セハ其結果大ニ同シカラスシテ第二日ヨリ種接部ノ皮膚及ヒ其近圍一「サンチメートル」ノ部ハ硬結シテ濃色トナリ次テ其部壞死シテ脱落シ扁平ナル潰瘍トナリテ後チ癩痕ヲ形成シテ全ク治癒シ近位ノ淋巴腺ヲ侵スコトナシ而シテ此作用ハ密ニ生活セル結核菌ノミヲ以テ得ラル、モノニアラス熱若クハ他ノ方ニ由リ殺却セシ者ニテ黴菌ヲ以テスルモ尙ホ得ラル可シ即チ結核菌ノ死セシ者ヲ能ク水ニ温和シ健康ナル豕鼠ノ皮下ニ種接セハ唯局所ノ膿瘍ヲ形成スルニ過キサレトモ之ヲ結核ニ罹レル豕鼠ニ種接セハ其量頗ル輕少ナルモ其量ニ應シ六時間乃至四十八時間ニシテ死ヲ來タス若シ用量死ヲ來タスニ足ラサルトキハ種接部ノ皮膚ニ廣キ壞死ヲ來タス尙ホ之ヨリ少量ヲ毎日若クハ隔日ニ引續キ注射スルトキハ豕鼠ノ狀態著シク改良シ種接部ノ潰瘍ハ漸次ニ縮少シ遂ニ癩痕ヲ形成ス之レ決シテ此治療法ヲ施サルモノニ見サル所ナリ即チ結核症ノ極メテ末期ニ達セサルノ若ハ動物ノ健康大ニ衰廢セルモノニアラザレハ淋巴腺ノ腫大セルモノハ其大サヲ減シ全身ノ營養ハ改良シ病的機轉休止スルヲ見ル是レ實ニ結核ニ對スル「ツベルクリン」療法ノ立脚點ナリ

「ツベルクリン」コッホ氏ハ種々試驗ノ後チ此有力ナル物質ヲ結核菌ヨリ四十乃至五十%ノ偏里設林溶液ヲ以テ抽出セリ抑々治結核劑ト指目セラレタル此ノモノハ畢竟結核菌ノ偏里設林越幾斯ニ外ナラス而シテ「ツベルクリン」ノ此發明ハコッホ氏ノ細小生物學ニ於ケル位置名聲ノ高キカ爲メニ全世界ヲ動シ結核ノ治療期シテ待ツ可キヲ信セシメタリ然レトモ許多ノ試驗ヲ經テ此希望ノ虛忘ナルヲ認メ之ヲ治結核藥トシテハコッホ氏ノ一學派ヲ除ケハ數年來全ク地ヲ掃フテ使用スルモノナキニ至レリ然レトモ其診斷的價値ニ至テハ Noard, Bang, max-Beck 氏等ノ確實ニ保證スル所トナレリ

「ツベルクリン」ニ免疫作用ナシ「ツベルクリン」ニ治結核ノ效アリトセハ其作用ハ極メテ微ナル

モノトセサルヘカラス其全身及ヒ局所ノ反應ハ結核ヲ傳播セシメ易ク抵抗力ヲ減少スルノ危険アリ何トナレハ「ツベルクリン」ハ毫モ殺菌力ヲ有セサレハナリコツホ氏自己モ「ツベルクリン」ハ自己ノ希圖ニ副フ諸性質ヲ備ヘサルコトヲ知レルカ如シ其新「ツベルクリン」ヲ公表セシ論文ニ「ツベルクリン」ヲ以テ成セシ免疫ハ結核菌上ニ毫モ作用ナシト謂ヘルヲ以テ知ル可シ然レハ「ツベルクリン」ノ發見ハ結核ノ免疫問題ニ生シ結核菌ニ對シ免疫ヲ附與スル者ヲ探ルニ當リ誤テ結核菌ニ對シ毫モ免疫ヲ附與スルノ性ナク唯結核症ニ對シ奇異ノ反應ヲ呈スルモノヲ摘出シタルモノナリ而シテ同氏ハ尙ホ「ツベルクリン」ノ免疫作用ハ專ラ結核毒素ニ對シテ生スルモノナルコトヲ唱道スレトモ予ハ「ツベルクリン」ガ結核菌ニ罹レル動物ノ體內ニ於ケル眞正自然ノ毒素タルヤヲ疑フナリ何トナレハ「ツベルクリン」ハ決シテ實布埤利亞及破傷風ノ毒素カ同名菌ノ病の代用ヲ代表シ得ルカ如ク結核菌ノ病的作用ヲ現在セサレハナリ加之「ツベルクリン」ニシテ眞ニ結核菌ノ毒素タレハ其免疫作用ハ同時ニ結核菌ニ及ハサルヘカラス實布埤利亞ノ解毒血清ニハ同菌繁殖スルモ其病原作用ハ全ク奪却セラル「ベスト」菌(エルサン)氏菌ニ對シ同氏ノ成セシ解毒血清モ亦細菌ノ繁殖ヲ許スモ全ク無害ノ菌ト爲スナリ故ニ「ツベルクリン」ノ免疫作用ハ對「ツベルクリン」ニシテ對結核ニ非ス又恐クハ結核ノ体内ニ於ケル毒素ニ對シテ無効ナルモノナラン然レハ「ツベルクリン」ヲ治結核藥トシテ使用スルコト廢止セラレタルハ其理ノ然ルヘキ所ニシテ畢竟結核ニ對シ毫モ免疫ヲ附與スルコトナキヲ以ナリ但シ「ツベルクリン」ノ結核症ニ對シ誘起スル所ノ奇異ノ反應ハ其治療的眞價ヲ知ラシムルニ於テ頗ル吾人ヲ迷ハセシモノニシテ此懷疑ノ迷路ヨリ逸出スルハ容易ノコトナラサリシモ遂ニ眞理ノ門ニ到達シタルハ確カニ治療學ニ於ケル一勝利ナリトス

予自己ノ實驗ニ照スニ「ツベルクリン」ハ結核菌ノ繁殖及結核症機轉ヲ毫モ妨碍スルノ作用ナシ
結核ノ種接前ヨリ「ツベルクリン」ノ多量ヲ注射シ接種後尙ホ繼續スルモ亦然ルヲ認ム然レトモ
死滅セシ結核菌ヲ種接シテ發セル所ノ局所ノ死結核 (Neuro tuberculose) ハ善良ノ作用アリテ局
所反應後治癒ヲ來タス故ニ予ハ其治療の價値ハ局所ノ反應ニアリテ免疫ニ在ラサルモノト斷定
ス此局所ノ反應ハ丹毒ノ發セシトキ他病ニ有益ノ作用ヲ來タスニ等シ狼瘡患者ニシテ幸福ナル
者ハ「ツベルクリン」ニ依テ治癒スルコトアリ是レ同症ノ丹毒ノ爲ニ輕快シ又治癒スルモノニ
等シ

純粹「ツベルクリン」即チ亞爾箇保爾ニテ沈澱セシモノクレフス氏ノ「ツベルクユルシヂン」即チ
「ツベルクリン」ヨリ取リタル「アルビユモーズ」ヒルシユフェルデル氏ノ酸化「ツベルクリン」
ペーリング氏ノ T、D 等ハ「ツベルクリン」ト同一ノ運命ヲ有ス可キモノナリ

對「ツベルクリン」血清 「ツベルクリン」及ヒ其他類似品ニテ免疫セシ動物ノ血清ハ縱ヒ解毒血清
ト稱セラレ、モ其實對「ツベルクリン」血清ニシテ結核及結核菌ニ毫モ感作ナキノミナラス身體
内ニ存スル真正ノ毒素ニ對シテモ解毒血清タル能ハス故ニ解毒血清ト稱シテ使用セラル、血清
ノ效ナキヲ悟ルニ足レリ此血清ハ結核ニ對シ免疫ヲ附與セサルノミナラス且ツ此血清ハ毒性ヲ
備フルモノナリ

「ツベルクリン」ノ發明ハ免疫ノ存在ヲ明ニセスシテ反テ吾人ヲ五里霧中ニ彷徨セシメ今日ト雖
モ尙ホ其假面ハ毒素ノ眞影ヲ蔽フノ弊アリテ「ツベルクリン」ヲ體內ニ於ケル結核毒素ト信スル
細小生物學者ハ頗ル多シトス

コツホ氏現象 「ツベルクリン」ハ結核ニ對シ免疫ヲ附與セサルモ先存傳染ノ第二傳染ニ於ケル感
作ニ關スルコツホ氏ノ發明ハ極メテ重要ニシテ其效沒スヘカラス是レ實ニ細小生物學者ノ初メ

テ結核ニ免疫ノ存スルコトヲ知ラシメタルハナリ此發明前ニハコツホ氏自己ノ實驗其他フアルク氏、アルロアン氏及ヒシヤラン氏ノ實驗共ニ免疫ノ存セルヲ證セリ更ニストラーズ氏此問題ヲ研究セシニ其成績畫一ナラサリシメチニコフ氏及ヒル―氏ハ結核研究中數度先存傳染ノ感作アルヲ實驗シメチニコフ氏ハ之ヲコツホ氏現象ト命名セリ第二次ノ傳染ハ常ニ輕易ニシテ此點ニ關シテハ梅毒及ヒ馬疫ノ如ク同一ノ現象ヲ存スルコト確實ナリト謂ヘリ而シテ四週乃至五週前ヨリ結核ニ罹レル豚鼠ノ眼球ニ結核ヲ種接スルトキハ皮下ニ於ケルカ如キ現象ヲ呈セスシテ正規ノ結核ヲ發生ス皮下ニ種接シコツホ氏現象ヲ呈スルトキハ少クモ結核菌ノ一部ハ體外ニ排出セラレ結核ヲ生スルトキハ其下ニ結核菌ヲ存ス故ニ新ニ之ヲ豚鼠ニ種接セハ傳染ス但シコツホ氏ハ此點ニ關シ毫モ論述セス

先存ノ傳染ノ第二傳染ニ於ケル貴重ノ感作即チコツホ氏現象ハメチニコフ氏及ヒル―氏ノ研究ニテ確實トナリ又大ニ詳密トナリ確カニ結核ニ免疫ノ機轉アルコトヲ教示ス唯其免疫ハ頗ル輕度ナルノミ病理解剖家ノ屍體ニ於テ結核ノ停止セシモノ若クハ治癒セシモノアルヲ證明セルハ此想說ヲ強固ト爲スモノナリ不幸ニシテ此免疫ヲ附與ス可キ物質ヲ摘出シ得スシテ「ツベルクリン」ヲ製出シタルハ最モ痛ム可キ大誤謬ニシテ吾人ヲシテ遂ニ結核ニ免疫ノ存在スルコトノ智識ヲモ消失セントスルニ至ラシメタリ

新「ツベルクリン」コツホ氏ノ第二研究ハ「ツベルクリン」ノ研究ニ比スレハ大ニ眞理ニ近シシレ「ツベルクリン」タル堀里設林越幾斯ヲ使用セスシテ免疫研究當初ノ試驗ニ於ケルカ如ク直接ニ結核菌體ヲ使用シタレハナリ而シテ新「ツベルクリン」即チ餘殘「ツベルクリン」T、Rナルモノヲ得タリ

此T、Rナル「ツベルクリン」ヲ製スルニハ乾燥セル結核菌ノ極メテ有毒ニテ生存スルモノヲ碼

腦ノ乳鉢ニ入レ同乳棒ヲ用ヒテ磨滅シ染色シ得ヘキ結核菌ノ大部分消滅セハ其殘存セル者ヲ除ク爲ニ蒸餾水ヲ以テ乳トナシ之ヲ三十乃至四十五分間一秒時ニ四千回轉スル有力ナル遠心器械ニ掛クレハ上層ハ透明ニシテ結核菌ヲ含マス下層ニハ管壁ニ粘著性ヲ有スル沈澱ヲ生ス此沈澱ヲ乾燥シテ再ヒ乳鉢ニ移シテ磨滅シ又水ヲ加ヘテ遠心力ニ掛ク再三再四反覆セハ結核菌ハ遂ニ磨滅シテ透明ナル液ニ化ス第一回ニ遠心器械ニ掛ケタルトキニハ上層液ヲ T、O ト稱シ其沈澱ヲ磨滅シテ以後生スル液ヲ T、R ト稱シ治療用ニ供スル此 T、O 及ヒ T、R ニ五十%ノ偏里設林ヲ加フルトキハ T、R ニハ白色綿花樣ノ沈澱ヲ生スレトモ T、O ハ變化スルコトナシ此 T、R ハ偏里設林ニ溶解セサル一物質ヲ含有ス是レ其舊「ツベルクリン」ト異リタル所ニシテ免疫性物質ハ之ヲ含スト云フ多量ニ用フルトキハ「ツベルクリン」ノ反應アリ而シテコツホノ説ニ結核菌ニ存スル免疫成分ハ悉ク含有セラレ加之ニ之ヲ以テ免疫セルモノハ舊「ツベルクリン」若ハ T、O ノ多量ニモ反應ヲ來タスコトナシト

T、R ヲ以テ成セシ免疫試驗 コツホ氏多數ノ豕鼠ニ免疫ヲ試ミタルニ佳績ヲ得テ有毒菌ヲ種接スルモ痕跡ナク吸收セラレ近位鼠蹊腺モ犯サレズ縱令鼠蹊腺ニハ腫張ヲ來タシタルモノト雖モ結核菌ヲ認メサリシト謂ヘリ尋常此腫張ハ結核菌ノ侵入ニ因ラサル可ラサルモ同氏ハ結核菌ナキ腺ノ腫大ニ就キテハ明ニ説明スル所ナシ同氏ハ又免疫十分ニ進マサル豕鼠ニ於テハ鼠蹊腺ノ乾酪變性ヲ認メタリ内臟ハ無事ナリシモ肺臟ニハ結核アリト云ヘリ是レ千八百九十七年四月一日獨逸醫事週報ヲ以テコツホ氏ノ報告セル論文ニシテ舊「ツベルクリン」ノ論文ニ比スレハ餘程正確ニテ明ニ豕鼠ニ後天免疫ノ成立シ得ラル可キヲ示セリ「ツベルクリン」發見ノ當時ハ免疫ノ存スル表徵ハ唯第一傳染ノ第二傳染ニ於ケル感作即チコツホ氏ノ現象ノミナリキ然レトモ Baumgarten, Walz, Huber, Ströbe, Adolinger, Jules Goumont 及チ Nicolas 等ハ此新「ツベルクリ

ン」ヲ以テ免疫ヲ試ミ得ル所ナクシテコツホ氏ノ成績ヲ非認セリ。Danzonノ犬ニ於ケル試驗モ新「ツベルクリン」ハ結核ノ發生ヲ止メサリシヲ表シ又別林傳染病研究所ノ助手 Max Beck氏ハT、Rノ免疫力ヲ保護センカ爲ニ M. Zimmermann 氏ノ報告即チ家兎ノ眼球ニ於ケルT、O及ヒT、Rノ效果ヲ認メタルモノヲ引照シテ論述シ以テ Baumgarten Walz氏ノ論文ニ答ヘシモ Zimmermann 氏其人ハT、Rノ免疫ヲ與フルヤ否ハ後日ノ研究ヲ要スト論結セリ如此新「ツベルクリン」ヲ以テ成ス結核ノ免疫ハ他ノ研究ノ家手ニ於テ成業スルコトナケレハコツホ氏ノ主張ハ吾人未ダ確實完全ノモノトスル能ハス

T、Rノ治療的價值 新「ツベルクリン」ノ免疫作用ハコツホ氏以外ノ實驗家ノ手ニ於テハ其結果虛性ナリシカ如ク其治療的價值モ亦多クハ其效ナキコトヲ證セリ若シ動物試驗ニ於テ免疫作用ナキトキハ其治療的效用モ全ク基礎ナキ濫用ノミ故ニ此治療的價值ニ就キテハ精密ニ新「ツベルクリン」ノ免疫作用ヲ有スルヤ否ヲ知悉スル迄ハ是非ヲ論シ難シ然レトモ從來提出サレタル報告ニ因テ視ルトキハ新「ツベルクリン」ニ免疫素ノ少ナキハ明亮ニシテコツホ氏ノ說ノ如クナラサルモノ、如シ若シ縱令免疫素ヲ含ムトスルモ世人ノ希望ニ副フ效力ヲ有セサルヲ知ルニ足レリ Banbach, Spengler, Petruschky, Dauriac 等ハ之ヲ使用シテ多少ノ輕快即チ體重ノ増加、食慾ノ増進、盜汗、咳嗽及呼吸促進ノ减退水泡音消失、咯痰ノ減量、痰中結核菌ノ減少等ヲ視タリ殊ニ狼瘡ニハ良結果ヲ與ヘタルカ如シ然レトモ此等全身及ヒ局所徵候ノ輕快ハ臨床上敢テ治療ヲ施サ、ルモ往々視ル所ナレハ之ヲ以テ人身ニ於ケル免疫ノ徵候トスルニ足ラス新「ツベルクリン」注射ノ爲ニ結核ニハ如何ナル變化ヲ來タシ結核菌ニハ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ病理組織的ニ證明シ得サレハ新「ツベルクリン」ノ免疫的及治療的價值ハ明ナラサルナリ此諸點ハ「ツベルクリン」ノ效力ヲ證明スル爲ニ極メテ必要缺ク可ラサル所ニシテ詳密ニ探究セラレサル

可ラス然ルニ不幸ニモコッホ氏ハ此ノ點ニ就キ完全ナル記述ヲ爲サス唯結核ニ傳染シテ後チ此注射療法ヲ施セル豚鼠ニ於テハ結核ニ罹リシ内臟ニ常ニ多少ノ退化變性アリ此變化ハ殊ニ肝臟脾臟ニ著シク肝ニ於テハ黃色ノ壞死的病竈ヲ見スシテ其部ハ奇異ナル凹凸不平ノ觀ヲ呈シ脾ニ於テハ萎縮ヲ來シ時アリテハ之ヲ發見シ難キ程萎縮スルコトアリト記述ス如此同氏ノ記述ハ漠然トシテ組織學的ニ結核組織ハ如何ニ變化セシヤ結核菌ハ依然存在スルヤ將テ消失セシヤ判明ナラス若シコッホ氏ニシテ此等ノ諸點ニ關シ精細ナル記述ヲ爲セシナラハ吾人ハ新「ツベルクリン」ノ治療的價値ヲ明亮ニ判斷シ得タルナラン

茲ニ新「ツベルクリン」ノ治療的效用ニ就キ反對セル諸說ニ就キ論セントスルモ孰レモ絕對的證據ヲ缺クカ故ニ詳密ニ論及スルヲ要セス或ル實驗家ハ之ヲ舊「ツベルクリン」ト同一ナリト認メ其作用毎瓶異ナルト云ヘリ而シテコッホ氏ノT、OトT、Rトノ境域甚タ不定ニシテT、R中屢T、Oノ不定量ヲ含有ス可キハ見易キ所ニシテ同氏ノ說ニ據レハT、Oハ舊「ツベルクリン」ノ反應ヲ來スト云ヘリ唯單純ナル器械的磨滅ヲ以テ一成分ヲ他成分ト別ツノ難キハ化學的溶解藥ヲ用井テ一成分ヲ他成分ト分別スルノ比ニアラサルハ論セスシテ明ナリ故ニT、Rノ反應ハ勿論區々タル可キモノナリト看做シ得可シ加之諸種ノ細菌ヲ含有シ甚タシキハ有毒ニシテ生活セル結核菌ヲ含有スルヲ發見セシコトアリ *Manghiano, Schroeder, Trudenn, Faldidin, Huber* 及 *H. S. Smith* 氏等ハ新「ツベルクリン」ヲ注射シテ豚鼠ニ結核ヲ發生セルコトヲ報セリ *Maxboeck* 氏ハ *Schroeder* 氏ノ說ヲ反駁シ畢竟注射器ノ殺菌不十分ナルモノヲ使用セシカ爲ニ結核ヲ發セシモノナリトノ說ヲナスト雖モ予ハ寧ロ遠心器械ニ裝用スルコト不完全ナルトキハ新「ツベルクリン」ニ結核菌ノ殘存セルコトアル可シトスルモノナリ如何トナレハコッホ氏ハ極メテ毒力強キ生活菌ヲ使用シテ製スレハナリ *Board* 氏ハ新「ツベルクリン」ニ諸多ノ細菌及ヒ釀母ノ存ス

ルヲ認メテ左ノ如ク決論セリ

此等ノ機生體ハ病原的ナラサルモ其製法ニシテ非病原的細菌ノ侵入アル以上ハ何ヲ以テカ病原的細菌ノ侵入スルコトナキヲ證シ得ンヤ又此等機生體ハ患者ノ皮下ニ注射スルトキハ通例危害ナシト雖モ一タヒ細小生物ノ培養地タリシモノニ於テハ其有效成分破潰セラレ若クハ變化セスト謂フヲ得スト云ヘリ然レハ新「ツベルクリン」ハ舊「ツベルクリン」ニ比シ稍々合理的ニ製出セラレタルモ吾人ハ其治療的價値上ニ信任ヲ置ク能ハサルナリ

舊新「ツベルクリン」ノ撞著 予ハコツホ氏ノ舊新「ツベルクリン」ニ於ケル意見ノ撞著ヲ明ニセンカ爲ニ數語ヲ加ヘントス氏ノ舊「ツベルクリン」ハ熱ニテ殺却セル結核菌純粹培養ノ偏里設林越幾斯ナリ新「ツベルクリン」ハ生活セル有毒菌ヲ磨滅シ韶水ニ溶解セシモノナリコツホ氏ハ嘗テ熱若クハ他ノ方法ニテ殺セシ結核菌モ生活菌ト同一ノ作用ヲ有スルモノナリト唱ヘナカラ一ノ説明ヲ加ヘスシテ新「ツベルクリン」ヲ製スルニハ死結核菌ヲ用ヒス殊更ニ生結核菌ヲ用ヒ其塵埃トナリ飛散スル危險ノ避クヘカラサル方法ヲ選ヘリ吾人ハ後ニ論スル如ク結核菌ノ熱ヲ以テ殺却セラレタルハ尙ホ免疫素ヲ含有スルコトヲ知ル「ツベルクリン」ヲ製スル爲ニ久時間百度ノ温度ニ熱シ其肉汁ヲ十分ノ一ニ蒸發セシメシモノ、中ニ存スル同菌モ尙ホ此物質ヲ含有ス

「ツベルキユロ、プラスミン」(Tuberculo-Plasmin) Hahn氏ハ新「ツベルクリン」ト略々同時ニ結核菌ヨリ「ツベルキユロ、プラスミン」ヲ製セリ是レ同氏ノ師 Buchner氏ノ釀母ニ砂ヲ加ヘテ磨滅シ高壓ヲ以テ搾リタル液ニ亞爾簡保爾酵素ヲ含有セル試驗ニ基キタルモノニテハーン氏ノ結核ニ於ケル成績ハ多數ノ場合ニ陽性ナリシモ完全ナリトハ云ヒ難シ即チ結核ノ純粹培養若クハ結核痰ヲ以テ十七ノ豚鼠ニ接種シ次テ「ツベルキユロ、プラスミン」ヲ復注射シ漸次増量セシニ九匹ノ豚鼠ハ對證的動物(注射ヲ受ケサルモノニシテ六乃至八週ニシテ死ス)ヨリ永ク生存シ内

四匹ハ數月後ニ死セシモ五匹ハ報告ノ際尙ホ生存セシト云ヘリ此「ツベルキユロ、プラスミン」ハコツホ氏ノT、R及ヒT、Oノ混合ト略々同シキモノナル可シ然レトモコツホ氏ハ結核菌ハ乾燥セサレハ單ニ磨滅若クハ砂ヲ加ヘテ磨滅セントスルモ磨滅シ難キモノナリト云ヘリ

他ノ免疫法 結核ニ對シ試ミタル免疫法ハ他ニ頗ル多シト雖モ今日ニ至ル迄一ツモ満足ノ望ヲ屬スヘキモノナシ予ハ唯紀念ノ爲ニ畧述センニ此等ノ諸成績ハ不確實ニシテ論争スヘキ點頗ル多シ即チ始メ毒力ヲ弱メテ注射シ免疫ヲ企テタレトモ毫モ免疫ノ效ナク(ボームガルラン氏)時トシテ感受性ノ反テ増加スルヲ認ムルコトアリ(フアルク氏アルロアン氏)

Grancher氏及リLedoux-Leberd氏ハ生活セル結核菌ヲ極小量ヨリ次第ニ増加シテ注射シ免疫セント試ミシモ效ヲ奏セサリキ又グランゼー氏ハMartin氏ト共ニ鳥結核菌ノ舊クシテ毒力弱マリタルモノヨリ漸次ニ新ラシキモノニ移リ種接セシモ遂ニ兔ニ完全ナル免疫ヲ與ヘ得サリキHeicourt氏及リCh. Rielet氏ハ鳥結核菌ヲ注射シテ以テ人體ノ結核菌ニ對シ犬ノ抵抗力ヲ増加セリ然レトモStraus氏ハ反對ノ成績ヲ得テ豫メ鳥結核菌ヲ種接セル犬ハ人體ノ結核菌ヲ種接スルニ於テ却テ速ニ死セリトイヘリDamenberg氏ハ殺菌セル鳥結核菌ヲ用ヒテ兔ノ抵抗力ヲ増加シ得シカ如シエリクール氏リセー氏モ亦稍々有望ノ成績ヲ得タリCommont及ヒDor兩氏ハ鳥及人身ノ結核ニ對シ免疫ヲ試ミンカ爲ニ鳥結核菌ノ溶解毒素ヲ使用シタルニ或ル場合ニハ免疫ヲ遂ク得タリSchweinitz氏及ヒTrudeau氏ハ豚鼠ヲ免疫スルニ人體結核ノ毒力弱キ者ヲ注射シテ成效シタリト唱フ然レトモ是レ完全ノ免疫ヲ得サリシコトハ該動物ノ遂ニ結核ニ罹リテ死セシヲ以テ知ル可シ唯其動物ハ對證の動物ヨリ三倍長ク生存セシニ過キス抑々結核ヲ種接セシ鼠ノ壽命ハ甚タ不定ナルモノニシテ之ヲ以テ有力ノ證據トスルニ足ラサルモノナリ又緩毒法ハバストール氏及ヒ其門弟ノ許多ノ學業ニ據リ結核ニモ成シ得ラル可キ者タルコトヲ想像シ得レ

トモ今日ニ至レル迄確實ニ之ヲ成シ得タルモノナシ且ツ緩毒ノ如何ハ予ノ問題外ニ屬スルヲ以テ深ク論究スルヲ要セス

以上論セシ所ニ因テ視ルニ免疫ノ諸試験ハ或ル動物ニ抵抗力ヲ増加シ得タルカ如シト雖モ人身結核ニ對シテハ悉ク失敗シ實用ニ適フモノアルコトナシ

血清療法 千八百八十九年エリクール及ヒリセー氏ハ犬ヲ結核ニ感セサルモノト信シ其血液ヲ取リ鳥若クハ牛ノ結核ヲ種接セシ兔ノ腹膜ニ注射シ血液療法ヲ開始セリ之ト殆ント同時ニ Berthm 及ヒ Pieg 氏モ亦山羊ノ血液ヲ以テ同一ノ試験ヲ行ハリ山羊モ亦結核ニ不感性動物ナリト信セラレタルモノナリ然レモ其無効ナルハ直チニ判然タリキ犬山羊ノ如キハ不感性動物ト信セラレタルモ其實然ラスシテ感受性アリ哺乳獸中結核ニ感セサルモノハ殆ントナシトス故ニ其後ハ人工的ニ此力ヲ血清ニ附與セント欲シ或ハ培養セル生活菌ヲ種接シ或ハ之ヲ殺菌シテ注射シ或ハ其溶解性產物若クハ之ニ培養菌ヲ混シ注射セリ然レトモ確正ノ結果ヲ得タルモノナシ而シテ血清療法家ハ之ニ依テ結核患者ノ體重ヲ増加シ熱度ヲ下降セシメ水泡音ノ消失及咳嗽ノ減退ヲ來シ得ルト主張シ兔及ヒ豕鼠ニ於テハ對證的動物ヨリ存命永キヲ唱フレトモ其血清ヲ動物ニ使用シテ以テ爾後感染スル結核ニ對シ豫防ノ效力アルタモ保證スルモノナシ況ンヤ既發ノ結核ヲ治愈シ將タ結核菌ノ消滅ヲ細菌學的ニ若クハ病理解剖學的ニ證表シ得ルモノヲ抑々解毒的血清ト稱スル血清ニシテ果ノ解毒力アルモノナラハ結核菌ノ毒性ヲ奪ヒ結核ノ形成ヲ妨害シ遂ニ結核菌ヲ死滅セシメサル可ラサルモ斯ル效力ナケレハ解毒のト稱スルヨリモ寧ロ解「ツベルクリン」毒ト稱スルコト可ナリベーリング氏ハ Wernicke 氏及ヒ Knorr 氏ト共ニ「ツベルクリン」ヲ漸次増量シテ注射セル人身及ヒ動物ノ血清ハ結核性動物ニ「ツベルクリン」ノ致死量ヲ注射シタルモノヲ救フニ足ルコトヲ公ニヒリ Zeinmann 氏モ亦「ツベルクリン」ヲ漸次増量シテ注射（亞爾箇保爾

ニテ沈澱シ偏俚設林ヲ除キタルモノヲ注射セハ尙ホ可ナリシタル血清ハ「ツベルクリン」ノ致
死量ヲ救フニ足ルト云ヘリ然レトモ「ツベルクリン」ノ結核毒素タルヤ否ハ己ニ論セシ如ク頗ル
疑ハシ吾人ノ要スル血清ハ真正ニ結核ニ對スルモノ、ミ解「ツベルクリン」毒ノ如キハ非ナリ
エリクール氏及ヒリセー氏ルドン及ヒセノー氏ブロカ及ヒシヤラン氏ハ生活菌ノ培養ヲ注射セ
ル血清ヲ用ヒ結核症ノ輕快ヲ來スト唱ヘタレトモ間モナク廢棄セラレタリ Maffucci 及 ヲ Di Yesta
氏ハ熱ヲ以テ殺セシ結核菌ヲ羊ニ注射シテ以テ得タル血清ハ豕鼠ノ結核傳染ヲ防キ得サリシモ
其病機ノ進行ハ緩慢ナリシト云ヘリ Balow 及 ヲ Brown 氏ハ鳥及ヒ人ノ結核菌ヨリ製セシ「ツベ
ルクリン」ヲ注射シ次ニ鳥及ヒ人ノ結核菌ヲ種接シテ以テ生スル動物ノ血清ハ「ツベルクリン」
ノ毒作用ヲ防キ結核ノ進行ヲ止ムト云ヘリ然レトモ其成績ノ正確ナラサルハエリクール氏及ヒ
リセー氏ノ示スカ如シエリクール氏及ヒリセー氏ハ先ツ鳥結核ヲ用ヒ次ニ人結核ヲ用ヒ免疫セ
ント試ミ或ハ經久ノ爲メ若クハ熱力ノ爲メ緩毒セル培養菌ヲ用ヒ或ハ有毒菌ヲ極メテ少量ニ注
射シ或ハ死滅セル結核菌若クハ滅菌セル毒素ヲ用ヒタレトモ孰レニスルモ満足ナル好結果ヲ得
ス驢馬ノ如ク人身結核ノ皮下若クハ靜脈注射ニ能ク抵抗スルモノニモ尙ホ免疫ヲ來シ能サリシ
且ツ「ツベルクリン」ヲ注射セシ者ニ於テハ其血清有毒トナリ結核ノ進行ヲ促シ且ツ徃々ニシテ
「ツベルクリン」ト同様ノ忌ム可キ反應ヲ來タスタ認メタリフホン、シユウイツ氏モ亦馬及ヒ騾
ニ緩毒培養菌ヲ種接シテ血清ヲ製シ結核豕鼠ニ數度該血清ヲ注射セルニ疾病ノ進行上ニ著シキ
抵抗ヲ現ハシ或ル者ハ治癒セルカ如キ觀ヲ呈シ或ル者ハ數月ノ後死セシモ治療セサル者ニ比ス
レハ頗ル長ク保命セリト言ヘリマラグリアノー氏ハ人及ヒ或ル動物ノ血液ニ解結核毒素ノ少量
ニ存スルモノト信シ之ニ特異毒素ヲ注射セハ其増加ヲ來ストノ考案ニ據リ對結核血清ヲ製セリ
其血清ハ人身及ヒ動物ニ有害作用毫無モ是レナシ而シテ結核患者千有餘名ニ使用シ著ルシク病症

ノ輕快若クハ臨床上ノ全癒ヲ得タリト唱フ予ハ其ノ人身結核ニ對スル治療的價値ヲ是非スルヲ敢テセサレトモ其動物試驗ニ於ケル成績即チ結核試驗ニ缺ク可ラサル豕鼠ノ種接成績ハ查ヒサルヲ得ス而シテ同氏ハ此點ニ付十全ノ成績ヲ得サリシコトハ確實ニシテ自ラ說ヲ爲シテ曰ク諸生物悉ク同様ニ結核菌ニ對シ抵抗力ヲ備フルモノニ非ラス治療血清ヲ注射スルモ尙ホ結核菌ニ抵抗スル力ヲ發生スルニ足ラサル者アリト而シテ結核及ヒ結核菌ニ對スル該血清ノ感作ハ嘗テ病理解剖學的ノ實證ヲ得タルコトナシ同氏ノ說ノ如ク豕鼠ハ頗ル結核ニ感受シ易シ然レトモ此豕鼠ト雖トモ結核ニ對シ免疫ヲ備ヘ得可ク又其結核ニ罹レルモノモ治癒セシメ得可キモノナルハ請フ之ヲ後ニ論スヘシ

論シテ茲ニ至レハ血清ハ眞ニ對結核性ヲ備ヘタルモノナク解毒的ト稱セラレモノモ亦結核菌ニ對シ毫モ作用ヲ呈スルコトナシ結核ノ血清治療ハ唯結核ニ免疫ヲ爲シ得可シト信スル醫家アルヲ示スノミ後天免疫ノ絕對的證據ヲ缺ケル以上ハ血清有效論者モ吾人ノ頭腦ニ結核ノ後天免疫ハ爲シ得ルヤ否ノ點ニ關シ一智識モ與ヘサルナリ

結核ニ於ケル免疫ノ存否 結核ハ一般ニ不治ノ症ト信セラレ、モ病理解剖ノ際生前不明ナリシ結核ノ存在ヲ發見シ或ハ舊キ結核ノ進行停止シ硬結セルモノヲ發見スルコトアリ以テ結核ノ或ル症ハ少レニ治癒スルコトナキニアラス少クモ臨床上病機ノ停止ヲ來スコトアルヲ知ルヘシ然レトモ吾人ハ何故ニ結核ハ其進行ヲ止メ自然ニ治癒スルコトアルヤ其理由ヲ審ニセス蓋シ此理由ヲ知ラント欲セハ先ツ後天免疫ノ成シ得ラル可キモノナルヤ否ヲ究メサル可カラサルヘシ後天免疫ニシテ果シテ成シ得ラル、モノトスレハ此關鍵ハ自ラ開開セラル、モノニシテ結核ニ免疫ナシト信スル者ノ惑ヲ解クヘキモ不幸ニシテ此點ニ關シテハ吾人從來五里霧中ニ彷徨シ未ダ曾テ一定ノ識見ヲ得サリキ本年別林府ニ開會セル萬國結核豫防會議ニテモ Johner 氏ハ結核ニ

天然治愈アリト雖トモ後天免疫ノ存否明ナラスト斷論シタリコツホ氏カ結核ニ免疫アリト唱道シテ以來己ニ十年ヲ懷疑中ニ經過ス夫ノ實布瑤利亞血清ノ不可思議ナル良效果ヲ奏スルヲ見テ之ヲ結核ニ應用シ良效續チ收メント欲シ血清ヲ造レル者少カラサルモ孰レモ對「ツベルクリン」血清ニシテ其最良ナルモノト雖トモ結核菌ニ對シテハ全ク效ナク其繁殖ヲ停止スルノ力ナク遂ニ特效アル血清トテハ發見セラレサルナリ然レトモ第一感染ノ第二感傳ニ及ホス感作即チコツホ氏現象ト稱スルモノハイ、ルー氏及ヒメチニコツア氏ノ證明セシ所コシテ予モ亦此現象ハ明ニ免疫ノ存スルヲ表示スルモノニシテ唯其度ノ輕少ナルコトヲ知レリ故ニ結核ニハ免疫存スルモノト信スルモ今日ノ如ク明ニ「ツベルクリン」ニ免疫ノ價値ナキコト判明ナル以上ハ「ツベルクリン」以外ノ新法ニ依リ此免疫機轉ヲ探究セサル可ラス予ハコツホ氏現象ヲ來タス可キ一成分ヲ分拆シ得タリ即チ健康ナル豚鼠ニ此物ヲ注射シ次テ結核ヲ種接セハ此現象ヲ來タスノミナラス此物質ノ注射ニ依リ結核ニ對シ豚鼠ニ免疫ヲ來タスヲ認メ結核ニ免疫ノ存スルコトヲ確證シ得タリ先ツ結核免疫論ニ入ルニ先タチ結核毒素ノ問題ヨリ講究セン

(未完)

漫

錄

●木村教授祝宴會上に於ける同教授の口話

編者速記

本日は斯く天氣の悪しきにも拘はらず今般僕の無恙歸校せるを祝せんとて諸君が此の盛なる會を御開き下されたことは誠に有難く存します僕

が獨乙國へ留學を命ぜられたは明治三十年の夏
て時恰も學校の夏期休業中でありましたなれど
も諸君と盛なる送別の會と開かれたるのみなら
ど既に卒業せられたる人々と共に紀念として金
牌及び白金と金との時計の鎖を贈られました又
僕の肖像を額にして之を本校に寄贈せられまし
た爾來滿二年以上を經過せることでありますか
ら當時の學生諸君の既お大半學校を卒業せられ
て今や社會に有爲の人となつて居らるゝは僕の
最も喜ばしきことであります夫故今日此席にお
集り諸君の大半は初めてお目にかゝることであ
りますが個人的に云へばそんなものなれども學
校の學生としては同じことで學生諸君が初あり
終ある厚意お對しては實お感謝の至よ存じます
又前お述べたる金牌など僕が出發の前日東京
あて出來次第直に受領致した次第にて贈られ
る御當人がまだ實物と御存じなぬことでありま
そから此席でお廻し申してね目かけ僕と又得
難き品として生涯大切に致しますが僕の光榮至
極と存じますより更めて諸君お厚く御禮を申し
ます此光榮を共に僕の我學校に對しても益々勉
めおければあらぬことと存じます扱獨逸國等に
於て二年間に見聞したことを話そうなふ隨分澤
山あります諸君とこ以後毎日親しく接するこ
とでありますから詳細の事と折を得てゆる／＼
な話を致すこととして今日は演舌めきたる長談
議をせずに草稿も何もせず唯出鱈目に僕が獨逸
國等に於て滿二年餘の歲月を如何に利用ししか
と云ふことに付即ちさつと經歷を述へて諸君の
好意お對する禮お代へよと思ひます

總て旅をとるには其出發に先だつて全旅中の方
針を細かき定めなければ旅中の時日を充分有益
に利用すること出来ぬ。自分も色々勤考
しました。又數多の送別會に於て四方の諸君は
僕を大なる希望と以て送られました。が僕は當時
こう考へました。僅か二年と云ふ限ある歲月間
於てと妄と仕事などに手を出して此貴重なる
日月を一事に消費するよりも學問上の仕事など
は到底受負仕事の様に一定の時日又成し遂ぐる
ことと出來ず寧ろ一般の視察をなすが將來に利
益と考へました。一体目醒しき大仕事などは長き
れ土産ではあるが「ガルワームス」が金屬の格子
に懸けたる蛙よりして一種此電氣を發明し「ワ
ット」が沸湯を見て蒸氣機械と案出するか如き
偶然の現象が其發明の基とあるは多かることであ
り。即ち天運もあることであらう。但し又當人自己
が平素注意深く且つ學識もなければ大業績を舉
る事の出來ませぬ。平素注意周到と云ふこと。何
事にも必用なことであり。不肖に目醒し
きた土産などの能く爲し得ると否。自ら疑ふ所
であります。から仕事を爲す。その出發の當時自
分の目的ではなかつたら。日進醫學の源とる獨
逸に著したら。彼地の人は如何なる工合に研究
をするや。今日の有様は。どうであるかを實際に視
察し。一般に見聞を擴め。傍ら人情風俗等を探究し
ようと。思ふ位でありました。

泰斗たる「ベルグマン」の教授の講筵に出来ました
一週二週と其臨床講義を聴いて居つたが自分も
十數年來獨逸の醫學雜誌を自讀し居ることであ
るから他事は兎も角外科の事に付ては左程驚く
程のことはない唯防腐法の如き悉く實施し居り
て手術の成績の佳良なる事等は流石のことと思
ひ感心したが講釋ぶりはどーだと云ふに随分粗
漏にして我がなし來りしものより或は不親切で
かめかと思ふた兎に角極めて大体を講せる事
であるから自分に之新らしきこともなく一時之つ
やらぬと云ふ念慮と起したこともある然し其後
に外科外其他の講義などを聴くに其教授法は何
れも實地的即ち實物又は標本の説明的の教授で
あつて甚だ單簡でこあるが甚だ明瞭である故に
後に善く考へて見ると先生達の教授は不親切な
りと思ひしことは半ば我誤であると云ふことに
氣が付めた即ち先生は學生より向ひ最も要點と摘
みて教授するので我々の如き多少外科を實驗せ
るものを教ゆるのではなぬ學生も大体の道案内
をするので教授法が生きて居つて學生が生きた
學問をする習ふた學問が生きて居るから卒業の
後も活動する又卒業後何か仕事をして何某先生
の指導よりなど、仕事の末尾に先生に禮の辭
が出てあるが仕事の最中に先生自ら毎日仕事に
助力をして呉れる様なことはなぬ又出來もせぬ
先生への唯志あらば何々を研究して見ると意に任
せて問題とさづけ之に要する材料を呉れる位の
事である仕事の研究は何人も自分がする分らぬ
處があれは書籍で取調べて見る尙了解を得ざれ
ば自分が説明を下すと云ふ様な譯で分らなければ

は直ふ先生とか又い外の人と質問すると云ふ様な委頼心は起さぬ自分の仕事は自分がする獨立獨歩人の助を仰がずして仕遂ると云ふ精神は自然と學生の時より養成せらるゝ様と見ゆるのでありませ我學校に於てを教授法は右の様に悉く實物の説明的であければとらぬと思ひますが残念ながら未だ其實物即ち標本などが備はらないから真似て出来ぬが然し教授上は付て自分は大量利益を獲たことと思ひます、

前にも述たる通り僕に歸朝の後自ら何事う研究するに當り彼地の人と如何様に研究する乎と云ふことを視て來て參考にする積であり又將來外科を研究するには病理は基礎の學として最も必要と感じて居りましたから伯林に於て彼有名なる「ウイルヒヨウ」氏の教室に入り病理と學びま

した氏の標本説明の如きと氏が五十年の實驗を以てすることなきば氏の一見は他人の顯微鏡と用ふるよりも深く透見するなるべく僕も病理の事は耳新らしきことも多くて面白かりしが之も矢張主として要點と摘みて示すなり、

右の如く「ウイルヒヨウ」氏や「ベルグマン」氏の教室は毎日通ひて研究し自ら利する處も多かりしされとて前の通り先生の講義と單簡なれば手術の時など時として流石は先生なりと思ふこともあれども貴重の時日と費す丈の價もあしと思ひました大家の説と直接に聴くなど、い平素は六ヶ敷ことと醫學會では發明者自身が講演すること故之と聞くは最も面白きことなれども之は毎日あることでもなく又大なる會に講演の間限定かざあて十分精密な演舌が出来ぬこ

とが多る故に會場の演舌と何々自説を世に公に
する爲の儀式とでも見て可なりと思はるゝ場合
もありて此の如き説も新誌や書籍で見れば多く
の充分でありませ、

て來ました之も大に利益を得た様お考へます最
も雑用が澤山あるからそゝ旅斗りして居る譯に
も行かすると其他の時日に於て何をすると
云へば外科以外の學科の講義の耳新らしき故之

こんな有様であるから此二年間又於て如何した
かば最も有益ならんと更に考へて見たが僕も授
業と實地と多少經驗もあることであるから臨
床講義など暫らく聽講すれば其先生の長所の大
体視ることが出来る様であり又其人の發明せる
ことなどは後に書籍等お就て見るを得可ければ
自分之此二年間お可成澤山の先生の臨床講義と
聽くことの利益と考へたから文部省へ願つて
「フライブルグ」や瑞西「ベルシヤ」境國「ウィー
ン」の大學を轉學の許可を得ました其外お自費
で諸方と巡歴して獨逸國の大學の多數の見物し

つて見ましたが之は仕事と名づくる程のもので
あいから公にとせざりしが伯林に都合一年居り
て後「フライブルグ」へ行き此處おては外科教授
「クラスケ」氏等の講義等時々聽きまじさか
主として彼有名なる病理家「チーグレル」氏の教
室に入り仕事の「テーマ」を與へられん事を希望
しましたすると流石の先生だけに醫學の時事問
題お注目し居りて即時に數多の問題を出し之を

ど一か彼こそど一かど色々與へられしお特別面白
くなかまし故自分骨の病理を研究したしと述べ
夫よ材料を貰ひて日々仕事に従事しました此
仕事は骨の萎縮に據て繼發せる骨の畸形等に就
て述べたるものにて病の本体の未だ明かなら
ざりし畸形性關節炎なども自分と其本態を説明
し得たる様お思ひますが之の仕事と追々「チー
グレル」氏の病理雜誌にて世お公にせらるゝ筈
であり又諸君と對しては十全會お於て演舌する
積でありますあら今日の此の仕事に就ては述べ
ません兎に角之は見込外のお貴品にて立派なも
のでないが然し仕事も西洋で一つ二つやつて
來ると自分が將來仕事をする参考になりて誠お
善記事をふしたりと今では思ふて居ります他人
お仕事をなす其方法を視て來た斗りよりも自分
がやつて見ると思ひぬ處お困難があつたり案外
おことがあるものですがお之を實驗して置くの
爲に大に利益だと思ひます僕も洋行せるおつ
と以前より彼此の事件は研究せる價ありと考へ
て手帳に扣へ置き時があらば始めようと思ひし
事も色々ありしが暫くすると西洋の新聞に自分
が其問題と思ふて居つた事を他人がちやんと立
派にやつてしまつた事おありますが問題と
考へ付きながら其儘お放置するなにとと懶惰干
萬てあるが實は不勉強と云ふてもおみんが又熱心
お研究する考あれば多忙の身おも時間のやりく
りし主たる原因と一は經驗なき爲め着手に而倒
なるど一は多少臆病神が取付き居りてめつたな
事を書き出せば人に攻撃せられん乎など考へ見

ぬ西洋が恐ろしき様な念があり又一の参考に供する書籍が金澤みどみ甚だ乏しき爲である。と思おれませんが百聞一見お如かきで西洋で學者が研究せる有様など見て來ると大に勇氣が付て來る自分が自分だけの技量を書き出して人が我説を攻撃して呉れば光榮だ幸ひよ自説が世上の問題となつたと喜んでよいことであると思ふ様おありました此勇氣が出たのも僕が西洋に行きし利益であると思はれます獨逸の普通新聞も世界漫遊せし人が本邦人を評して伶俐なるも Originalitätを缺くと記してありました之を閲ると腹が立つ様であるが實際を考へて見ると今迄の歴史上實際多く其評の適合せるハ事實の様をありまして誠に遺憾の事でありませす新醫學の義ハ歐洲醫學を輸入して日尙淺きこと故未だ斯道に Originalitätの少なきハ致方ないことながら通俗の人迄に醫學は最も進歩し居るなどと唱へられながら斯道の者が未だ醫海の島嶼に自領の國旗を蹴すことの少れあるは遺憾なことでありませ僕か彼地お行て視察せる處よ考へれば本邦の醫道は他事に比し未だ一般とは云はれせども割合に進歩し居るハ事實と思はれるが唯其進歩之西洋の醫學と輸入し多く其眞似をするので醫界よ自領なく借地に家を造りて住居し居る様なもの又多少草木繁茂しても花も實も結ばざる様なもので光輝と放つことが出來ぬ故に吾々益々勉強して歐洲に於ける斯道と平行することに力めねばならせ又研究して醫界に我領分を擴め我國旗を輝かさねばならぬと思ひます僕は今は西洋も一通り祝て來たからこんお事が云へるの

かも知れぬが前にも述べ通り仕事をそのの自分とする人の助を得てするのでぬいあら西洋で爲すを本邦に於てなすも何處で爲すも同じことであるから諸君も學校も在る間も基礎を堅固に造りて卒業の後は斯道に好味ある果實を結ばれんことを希望するので充分勇氣を出すが必要であると思ふ之に必要なるは歐洲の語學に通することにて今は學校でも獨語と正課の一であり諸君と此の語學も成るべく熟達せられんことを希望します目今本邦も何事か研究せんとするに最も障害となるは參考書の欠乏であります但此事よ付ては熱心に配意する積であります又序に一つ、思ひ付きましたか、一寸一言しますが彼の悉く書を信ぜれば書なきも如かずと古人が申しました、が實も然りて妄りに成書などを信ずるから Originalität なき人が出来る馬鹿であくとも猿真似しか出来ぬから凡て書籍なり他人の仕事なり閱讀する時、我が學識を以て之を批評し取捨するが必要で今日ではまだ洋文の仕事になんどなく價を有する様に見ゆる、尤の次第なれども此の點も注意と要する事で書中此事に枝葉もつけて疑を起し了解し得れば直ちに自ら研究すると云ふ様な譯にも、本を讀まなければならぬと思ふのであります、

さて仕事など爲し居ると月日乃たつは早きものにて二年此留學年限も夢と思ふ間に大分は経過しました、即ち僕と伯林と「フライブルグ」に最も長く滞在したので其外の數多の大學所在地に、僅かお數日居りし所も有り長くて一ヶ月位のことでありました其内年限も來ましたから再び伯

林又出て巴里を経て龍動に到り昨年十月二十九日土佐丸よて同地を解纜して十二月十九日横濱に着し同じく二十四日に當地に歸校し其砌も盛に諸君の歡迎を受け互に恙なきを見て誠喜んだこととてありまほ、

見たより利益ありしと思ひます兎も角西洋へ行た時は事々物々新らしきに拘り左程驚かむかつたが歸朝して横濱に着し夫より當地迄來り此の學校に歸ると云ふと驚いたも、實は驚いた何事にも驚いた萬事不整頓極まるに驚いた

僕が二年間の經歷の極大畧は右述べたる様の事にてたいしたれ土産も有りませんが時々僕は洋行前書籍や繪などを西洋の狀態を大体推測して居り又彼の地の勿論非常に進歩し居ると思ふて居りしこと故彼地へ入りても左程驚くむかつた我か専門の事なり又ハ風俗の事あり何と見ても左程驚かなかつたか、何でも皆な批評せる考て見て來ました手帳にも其時々見聞した事は批評と付して自分の考と扣へて置きました之も今どふり考へますると驚みてきよろ、眼て

病院の如き何處か、手を着けたらよいか一寸方角がつりぬ程なるに驚いた僕も之れ丈目が肥へたこと、思ひまほ現今の病院の建物患者の臥床衣服器具機械で到底完全なる新醫學の處置は施すことが出來ぬ摸範たる處置を患者へ施して諸君に臨床講義をなすことが出來ぬこんな事や西洋お於ける教授の方法か悉く實地的で實物に就て説明的になして居り爲に學生と勞少なくして生きた學問をすると云ふことは僕が獨逸に着すると直に感じたことであるから直に其事を其

筋の人々に書面を出てやつた病室も新築せねば
あらず書籍器械も漸く集めて参考の便と圖らね
ばならずと云ふて送つた吾々を西洋に派遣して
斬新なる事を見せしめて而して一物をも買ふて
呉れなければ又見聞を擴めて吐く意見を採らざ
れば派遣した利益はない親が子供に甘き菓子美
なる菓物を見せぶらゝした而已よて與へること
と出來ぬと云ふたゞ子供は不平を違ひぬい與へ
ぬことなら初から見せぬがよいと云ふて送つた
西洋に在る間に何乎仕事でも爲て歸朝すれば其
人個人的の名譽であり又國の爲にも賀とること
ではあるが夫れではまづ彼地に行つた利益が少
ない夫れよりも西洋の有様と見て之を取捨し我學
校を改良を圖ると云ふことは最も必要と僕と考
へて居つて前の様なことをくどく申し送つた之
かほんどうのれ土産の用意であつたが當時豫算
編製上乃都合等ひて僕が希望しよことの一つも
行はれなかつた一寸見本に携へて來たしと思ひ
し黒様など一も買ふて來ることと出來なかつた
ので僕も誠に残念でありましよ僕がつまらぬ仕
事なんのして來たとして諸君と對するれ土産の價
と殆ど全くない僕がほんどうのれ土産よしよ
と思ふた事い今述べたる次第で金も道具もない
から實地を見せることと出來ません譬へば防麿
的の模範ある外科手術を見せよと思ふても今
の有様でい爲ることが出來ぬ今の所での役者が
豚小屋で裸で芝居をする様なものと呆めねばな
らぬさりとて我國の様な國費を以て留學生をど
し／＼諸國に派遣する様な所と他は比と見ない
様と思はれますから一方から見れば誠に有かた

いことだと思ふて居ります只時の都合でまだ急に思ふ様も運ばぬ丈で僕も之から熱心に改良のことを述べる積で漸く改良が出来たならば之が即ち國家に對する僕のれ土産だと思つて呉れ玉へ西洋到着した時よりも歸朝して反て驚いたと云ふ膽玉が落付く様に思ふのは自分等の責任であると思ふのであります。

右に述べたる所は出鱈目でいあるが然し多少諸君の参考にあることもあろうと思ふのであります學校に在りてい如何様に學び卒業の後は如何様に斯道と研究すると云ふことの大體分りてあろうと思ひます獨立獨歩學んで進むが肝腎である西洋人の耐力があると思ひますが實に然るまで今日彼地あける醫學上の日刊新聞を週報や月報年報などに續々新説百出するのを其耐

忍と勇氣の結果で今學校と卒業して助手となり講師となり助教授に進むまでには間々數十年を経ざれば其地位を穩ざることあり其間屈せずまず研究して新奇と發明し以て名譽と得以て醫界に我領分を擴めんとする其慾望實に恐る可くであり吾々安閑として居りては逆も一の島嶼も領分にするには出来ません諸君豈に勇氣を振とせして可ならんや諸君の内にも將來洋行もせらるゝ人もあらん現は僕が教授した人で今獨逸に二人留學して居る近日尙一人行く筈であるが僕は此人等が僕より光榮を得んことと希望するのである又諸君の内に西洋へ行き得ぬ人も多からんがさればとて決して失望するゝ及ばない學問は自分がする何處お居つても出来る筈のである諸君勉め玉へ勉め玉へ

●寒稽古記事

粹然たる正氣は秀抜して巍々不二の嶽の如く、
汪然たる氣宇は長流して洋々大瀛の水の如し、
發して萬朶の櫻となれば、衆芳難與儔、嗟之れ
神州男子の特操も非ずや。

昔は東坡寛胃養氣と以て人生の第一義となせり
夫れ國に元氣なければ即ち危殆く、人志氣あく
ん心則ち碌々たるを免れず、
曆は既お青帝を報ずるも我北溟の天地の暝々と
して六花時に連月開かず、人は頭首を窓裡火邊
お集むるの時、檄あり曰ふ。

一月十日より向三十日間臨床講義場に於て劔
術柔道の寒稽古と施行す、
と窓幾多血精の男子、何爲れず躊躇せんや、
袞鐵冷々寒枕夢醒め、忽ち鷄鳴を聞て蹶起せれ
ば東窓白を生し天は將に曉けんぞす直に馳て演
武場お會し劔花火を戦ひし搏闘の技と習ひ、龍
躍り虎嘯くの活劇を演ずるお至りては懦夫と雖
も亦將に眉昂り肉の躍るを覺へざるべし況んや
朔風颯々面を刮り、池水鏡の如く氷るの曉、或
ば堆雪脛を没して肌膚爲に凍らんとするの朝、
雄心落々堅氷を碎き、積雪と胃し以て体軀と鍛
へ心膽を鍊り、勵精三旬風雪と苦操を争ふ此意
氣稜々正に斗牛を貫くの概に至りては、焉んぞ温
然火閣の殘夢を貪るの人の夢想し得可き處あら
んや、試みお諸君が養ひ得ざる余威と籍りて勇
往奮進虎狼の窟に突入せん乎、端然として膽氣
動うず居然として心志驚かま機に臨み變に應む
從容として迫らす綽々たる余裕以て鬼捉ふ可く

龍屠る可けん嗟快哉

茲に皆勤者の壯名と録せんか、

● 劔 術 部

關口通太郎 松王 敷男

小林 茂樹

な時——機

大西 顯造 飯塚 忠男

駒井 定哉

満堂皆これ驍勇の士懽氣溢れて眼中既に敵あし

島 誠郁

● 柔 術 部

宮 井勇 村田 讓

河野 勇

技を演ずることを。

田中 秀夫 松田龜太郎

梶川 藏重

因よ我醫學部に於ける勝者の芳名と録せば

關口通太郎 高澤辰之助

渡邊 十治

劔 術 (二月十二日)

佐伯 亮齊 鳥飼 尹重

井上 隼雄

飯塚 忠男

大口 富次

濱口 廣海

高田 重忠 橘 三九

佐藤 軒二

森岡京次郎

渡邊 十治

須田嘉三郎

駒井 定哉

永江 直之

● 武道勝負大會記事

柔 道 (二月十八日)

この力瘤賣りもせで空しく書冊の塵よ葬らんこ

佐藤 軒二

土田久三郎

高田 重忠

井上 隼雄 宇敷 元 渡邊 十治
關口通太郎 高澤辰之助 河野 勇
尚ほ當日劔柔共ニ進級せられたる諸君尠なからず中、村田讓氏は柔道有功章と校友會長より賜はりたり特ニ附記す

雑 報

●高安教授書信 在獨國ある同教授より去る一月廿九日の日附を以て北條校長、山碕主事に宛てて發したる書信の一節を得たれば茲に掲げて諸君に頒ち候

前略小生研究致居候教室と小生下宿より二十丁斗り西北に當りてフリドリヒハインと申す

公園の傍に在る伯林市立病院に屬する病理解剖所にして傍ら大學の病理教室に宛てたるものには是あり昨年十一月一日新築落成移轉せし者よて小生は此の移轉の日より通學致し居候監督長と「プロフェツソル」ハイゼマンと申す者に御座候該病院の病室は都合十二棟あり皆日本の四階建として内一階は半土中に埋没するも種々應用あり患者總數七百名を取容するに足る其他事務室會議室診察所炊事場洗濯所調劑所等皆廣大の四階建にして洗濯所に要する經費のみにても金澤病院全經費の二三倍を要することゝ想像致し候小生等研究所之一棟の三階建にして其内床下一階は物置屍休室に相成居り候建坪大凡二百二十五坪にして階下左圖の如く區劃相成居り候

菌學實驗室	扣室	扣室	葬儀室	病理組織研究室
全上	卵母室	附屬室	附屬室	標本室

化學室	全上	教授扣室	葬儀室	死体上下室	解剖室
	宿直室	小使室	僧扣室	屍室入口所便	票製造室

兎お角市立病院おして此の如き研究室を建築
 せると見れば學問上には特お借氣なく費用を
 投せるかとも被思候日本の代議士おどもト
 一カ開明國の實況を知らしめセメテ今少數學
 術機關の早く完全する様致し度候日本の學問
 は主として理論を以てし實驗は客たるの姿な
 るも歐洲お於ては之に反して主に實驗を以て
 導く様相見へ候夫故學生も大に理解し易く從
 て實力の進歩速なる様に被察候講義などは誠
 に簡單なるものにて此學期中には是々は是非
 講終せねばならぬ杯と定まりて無是只に進む
 丈止め學生も亦甘じて之を許し實に奇態お
 相見へ候尤も學年又制限かく何年にても學校
 に居て自分都合よき學期に卒業試問を受くる
 の規定故上記の講義方にてても可然と存候其代

り自分より進んで研究せんと思ふ事之何學料
ふる由。

● 齋藤氏、遠江國濱松市濱松監獄署へ在勤。

● 大橋豊氏、目下福井縣丹生郡立待村上石田より
來申候早く日本に於ても加様る方法にて教授
於て開業。

● 田代保二氏、久しく金澤病院内科へ奉職の處
の出來る程度に進ませ度希望仕て候然し學問
は兎に角學生海は勿論其他一般の風俗仁義作
去月職を辭し歸國せらむたり。

● 小川爲吉氏、昨年十二月より金澤病院眼科へ
法等に至りてこ一小部と除くの外成る可く輸
入致したくこれなく候(中略)醫學部あ於て圖
奉職。

● 田中健治氏、本年一月來檢疫官として大坂府
書閱覽室開所相成り候趣小生も豫て此事密に
目論み居り候へども遂に果さずして去りしに
愈々開設相成候は實以て喜ば敷存じ候來月よ
開業。

● 新谷信吉氏、東京永樂病院内科勤務。

● 關根倉治氏、朽木縣足尾銅山醫局へ在勤の通
座候云々

● 望月慶作氏、一月來檢疫官として大坂府へ出
知あり。

● 吉川砥直氏、一年志願兵として昨年十二月越
張の所目下自宅靜岡縣庵原郡辻村に於て開業せ

後國北蒲原郡新發田町歩兵第十六聯隊第十三中隊へ入隊。

● 安村順吉氏、陸軍三等軍醫同氏は釜山郵便局氣付韓國慶尙道大邱出張所へ在勤。

● 本田三郎氏、昨年來金澤市金城病院へ奉職。

● 鈴木寛之助氏、澎湖島馬公水雷敷設隊付勤務。

● 吉田幡誠氏、帝國醫科大學外科介補を囑託せらる。

● 深美貞之助氏、一年志願兵として鯖江歩兵第三十六聯隊へ入隊中。

● 築紫末雄氏、曩に檢疫官として大坂府へ出張の處這回歸郷せられたり。

● 番場友平氏、は這回諸角と改姓せられ、東京傳染病研究所へ入らるゝ由。

● 竹中繁次郎氏、全上目下大坂市に於て開業。

● 渡邊順吉郎氏、東京吉原病院へ奉職。

● 蓮村外男氏、東京高等師範學校々醫勤務。

● 森亮氏、東京共濟生命保險會社へ在勤。

● 藤井秀氏、東京芝區三田一丁目三十三番地に於て開業の由。

● 河村賢太郎氏、東京真宗生命保險會社へ在勤。

● 村本笹次郎氏、帝國醫科大學内科撰科在學。

● 大澤五月氏、全眼科介補として勤務。

● 園崎純次郎氏、東京養生院醫員として在勤。

● 北豊吉氏、帝國醫科大學衛生梅菌學科介補勤務。

● 辻岡律氏、全上皮膚病梅毒學科介補勤務。

● 小倉加二郎氏、帝國醫科大學内科撰科介補勤務。

● 駿河尙庸氏、東京痘苗製造所技手として勤務。

● 田上清貞氏、今般上京の上大學眼科傍觀生と

して通學せらる。

●太田精一氏、東京兩國病院醫員勤務。

●鶴見金十郎氏、山城國伏見歩兵第三十八聯隊
へ勤務。

上京せられ大學皮膚病科傍觀生として同五日よ
り通學せらる。
●星子元真氏、目下東京帝國大學眼科實習部
於て専ら研究中の由。

●北川健三、齋藤幸作、諸角友平、の三豫備見習
醫官は勤務演習結了し付三月一日解隊せられた
り(七聯隊)。

●百谷義一、田中正一、田中一次、の三豫備見習

●横山軫氏、賛成會員たる同醫學得業士は兼て
東京遊學英語研究中の處今般外科學研究の爲め
三月十六日横濱解纜の佐渡丸に塔じて英獨二國
へ渡航されたる由なり。

醫官及び山岸理一郎の見習藥劑官は全上お付全
日解隊せられたり(二十五聯隊)。

●金子太須計氏、東京大學第二院眼科傍觀生と
して通學研究せらる

●醫科第四年生竹下麗三郎氏、と這回陸軍衛生
部依託生徒を命せられたり。

●第十四回講話會 去る一月廿八日午後一時よ
り臨床講義場内眼科學教室に於て開ある。佐々

●關屋林之助氏、東京帝國大學醫科大學お於て
昨三十二年十二月第十四回國家醫學講習科を卒
業せられ神奈川縣檢疫官たらし同氏と三月四日

木委員長先づ開會の主意を述べられ次で通常會
員森井喜三次郎氏「男性と女性との差異と論ず」
てふ演題の下にねのが實驗談を述べらる。次で

村上教授『新寄生蟲の「デモンストラチオン」』に就て、下平教授赴任の際、贈られたる標本研究の結果、新寄生蟲を發見せられ、其大さ、形狀、色等を従來二三の學者の報告を比較し、且つ又他寄生蟲との異点、鑑別に就て詳論せられ、同教授が山梨病院在職の際、同縣山城、笛吹、釜無登美村地方に於て一種恐るべき原因不明の腹水病の流行することと留意せられ、該標本も同地方人の肝臟中に存在せし事より、或は本寄生蟲と其腹水とが大なる關係と有するものならんかと考へられたる事などを述へられ、該寄生蟲の標本數多を衆覽に供せられたり。終りに木村教授『骨の萎縮』に就て留學中の研究論を説述する事滔々數方言、標本説明等を終りて歡會せしは午後五時なりき。尙本日他の辯士も數名ありしも、時晡お近きと以て次回を譲る事となり。當日會者約二百名。

● 終日行軍 二月三日、醫學科三年二年、藥學科二年生及び大學豫科二年生全体は蕭條たる沛雨を衝て、粟ヶ崎より大野附近お發火演習を試みさぞ。

同八日醫學部一年及び大學豫科一年生全体堆雪を冒して河北郡二俣附近へ同じく終日行軍を行ひたり。

● 第十五回講話會 三月四日例の如く臨床講義場眼科教室内お開けり開會に先だち木村教授は歸朝の際持來られたる歐洲の風景及醫學大家の寫真數多を又小川教授は在臺灣星野軍醫よりの寄贈にかゝる臺灣領地の產物景色の面白き眞影と示されより午後二時二十分に至り講話委員長

欠席の爲め小川教授代つて開會の辞及び小林醫學士より十全會雜誌部へ金圓を寄贈されたる旨を告げ順次左の講話ありたり

第一席醫科二年生島誠郁氏之「死の觀念」として人類創生の根元より動植物細胞の蕃殖生活の情態及び其死滅如何と説き次で人類に及びし諸大家の説を參省して熱心み述べらる

第二席「一部性后屈子宮妊娠に因する膀胱充満の一例」と題し賛成會員藤岡醫學得業士は快濶に着實に氏が實驗説を演ぜらる詳細は本號實驗欄あり

第三席教授小川醫學士は「年齡」なる題の下に其起因算定の方法及其誤謬等につき醫學的觀察を以て詳細鄭寧に説明さるゝ處あり時々諸識の言を弄して聽衆滿座の大笑と搏し不覺興

に入らしめたり次で暫時休憩五時に至り再び開會す

第四席教授木村醫學士は諸種の「プレパラト」を示し滔々たる快辯を以て前講話會ふける不足と補はれたり尙ほ引續同問題ふつき説明ある筈なりしも時間の都合により止められたるの遺憾なき次で氏は獨逸留學中専門科學研究の餘暇二十五人の男子に就き「尿道膀胱中綠色釀膿桿菌の有無を驗し該桿菌は屢中お蕃殖するものなるや否や若之ありて生潯するものとせば尿の作用によりて色素産出の固有性と失ふよゝ非ざるか或は該菌尿中に存するも他の微菌の爲に發育し得ざるよゝ非ざるや又尿の酸性は色素分泌を妨ぐるものに非ざるなきか」等の問題を講究されたる結果の

報告あり爾餘の研究と都合により中途に廢止 録欄にあり

して之を學友 Dr. V. Knefer. 氏に譲られたる ● 教室増建 今度病理教室を臨床講義場内舊病

由よて其の成績此報告は本會へも一部寄贈さ 理實習室の跡に建設するの目的を以て目下工事

れたり 着手中なり尙婦人科實習室、擊劍、柔道々場も

右終て小川教授閉會と報せ時正に五時四十五分 新設さるゝ筈也

本日の聴衆職員學生及び開業醫等の諸士と併せ ● 賞狀下附 曩きに東北三縣地方海嘯ありし際

無慮百名ありき 在校の當時四年生一同義捐金募集の上之を贈送

● 木村教授歸朝祝宴會 一月十五日午後五時同 せし處此頃當市役所の手を経て三縣知事よりの

教授の無事歸朝を祝せんが爲め學生一同古寺町 賞狀を下附されたり其寫し左の如し

北間樓に於て先生を待して酒筵を開く席定まる 石川縣加賀國金澤市第四高等學校醫學科

や濱口廣海氏發起人ふ代り開會の辭を述べ次に 第四年生一同

教授の答辭あり且つ珍奇の高話を添へらる酒酣 一金壹圓

おして劔を按して歌ふもの衣と挿して舞ふもの 明治二十九年六月縣下海嘯ノ際罹災者救恤ト

陶然たる清酔の内教授の萬歳と唱て散せしと午 シテ頭書之通惠與侯段奇特ニ候事

後八時半なりき、當日同教授の口話と掲けて漫 明治三十一年七月一日

宮城縣知事正四位勳二等 時任爲基^卍

全上

八十島庄五郎

巖手縣知事正四位勳三等 服部一三^卍

三月十日

青森縣知事正五位勳六等 河野主一郎^卍

叙從六位

正七位 下平 用彩

●叙任及辭令

二月二十七日

三月十二日

依願教務囑託ヲ解ク 教務囑託 藤井 勲雄

第四高等學校醫學部ニ關スル圖書器械設備

三月十日

取調委員ヲ命ス

叙從五位

正六位勳六等 木村 孝藏

木村 孝藏

一月十一日

二月六日

三級俸下賜

第四高等學校教授 木村 孝藏

任陸軍三等軍醫

北 豐吉 十一級俸下賜

第四高等學校教授 高山 基重

全上

永井 環 四級俸ヲ給ス

全上

木下 克雄

第四高等學校助教授 末近 義介

全上

東 良平 一月十八日

全上

河合 鷹 陞叙高等官三等

任陸軍三等藥劑官

林 常雄 第四高等學校教授正六位勳六等 木村 孝藏

陸叙高等官五等

二月二十四日

第四高等學校教授正七位

下平 用彩

依願石川縣師範學校々醫ヲ解ク

一月十九日

金澤病院醫員兼講師 岡田 剛吉

任海軍少軍醫

海軍少軍醫候補生

中野 才幸

二月二十八日

補吳水雷團附

海軍少軍醫

中野 才幸

命石川縣師範學校々醫(年手當百圓)

一月二十二日

金澤病院醫員 加藤 慶三

依願教務囑託ヲ解ク

金澤病院醫員兼第四高等
學校醫學部眼科學教務囑託

加藤 慶三

●木村教授 同氏之去九日より六日間の豫定を
以て墓參の爲め郷里鯖江へ歸省中の處十三日歸

眼科學教務ヲ囑託ス

校されたり

金澤病院醫員

金森 種次

●星野賛成會員よりの書翰 左は臺南衛戍病院

一月三十一日

依願職務ヲ解ク

講師

小林 文泰

陸軍三等軍醫星野正齋君より小川教授へ宛送ら
れたるものゝみるが(二月二十日附)同地の事情と

二月十二日

依願副手ヲ解ク

知る一助にもと思ひ同教授に請ふて茲お掲げぬ
前零十全會雜誌第十一號御送附被下難有拜受

金澤病院醫員兼内科副手

田代 保二

致候今日の盛會誠に豫想外有之轉た懷舊の

情に不堪候今後尙ほ一層の隆盛を奉祈候十全
會創立の當時を追想致し候へば迂生も今日の
如く御無沙汰も相成り兼る次第有之候得共
貧乏暇なしの古語の如く加之日に月み背進す
る生には何一つ御目に掛くる材料も無之候爲
めと御憐察被下度候

昨年の當時は Pest の爲めに随分多忙と極め候
得共本年と未だ其の形ちも無之一同喜び居申
候「マラリヤ」と脚氣は不斷内地人に對しての
大敵に有之患者の九〇％は兩病と御考被下度
候吾生も先輩諸彦に隨て其の侵入門研究とか
に從事致し居候得共小田原評議の如く面黒き
事許りに御座候

土匪は近來又候優勢と相成り當局者が苦心の
程も察せられ申候從來土匪の格言お曰く

- 一、白帽(巡查)と見なば呐喊せよ
- 二、赤帽(憲兵)と見なば避けよ
- 三、黄帽(兵士)と見なば逃れよ

然るよ近來蕃仔山(Banagutan)に集合せる土
匪の格言と「日本軍人と見なば子孫の代に至
る迄抵抗せしめよ」と有之候嗚呼彼等無智
の賤民(否寧ろ富裕にして却て道臺たるの資
あるものあり)何の故に斯くの如く相成申候
か天日の雲に遮られて遍く衆生を照し得ざる
爲めにや厄介者に御座候

麻刺利亞と脚氣との不斷内地人に對しての大
敵有之患者の九〇％は(但し軍隊にて)兩病
と御考被下度候豫防法お就て小田原評議も
有之候臺灣に無經驗の人或り臺灣にて晝飯せ
し位の人が皮想的の談にて随分悪しく申居り

候得共今日の場合老人と兎も角少壯の士人と
須らく來て一運動可致處と被存候殊も刀主家
と眼前の利を捨て稍々永遠の企てとをささば實
は愉快なる所あるべくと存候

一般衛生と稍々其の緒に就き十百年來の甘蔗
の喰ひ糟も見當らざるに至り申候臺北城内は
東京の銀座通りも及び不申候

當地の嚴寒ども申すべきは唯今に御座候先づ
拾ふ羽織位おて宜しく候盛夏の四五月頃と八
九月頃に候然し屋内なれば左程苦しきこと無
之候物價の内地より高きは數の免れざる處と
存じ候得共商人の増加するお從ひ漸々廉價と
相成申候九州小倉地方より來れる將校の説に
之却て當地の安價なりと申居候北部よりは南
部が一汎お好氣候に候之は一寸人の怪む所に

御座候衛生法完全の後ハ本島は所謂蓬萊島と
可申ものに相成可申候

兵卒にして肺病核を存するものと豫後宜しか
らず然し是等の主に麻刺利亞の爲に増悪とる
ものなるが故に普通の人にて之却て轉地療法
に適すべくと考申候内地お歸還せる一紳士肺
結核増悪せるを以て再び渡臺せるものも實際
に有之候

近來内地は於て百斯篤病の散在とるを聞知致
し申候然し甚だしき流行を見ざるは全く當局
者の綿密なる勉強に依るべしと存じられ候得
共亦た一汎の衛生法が完全なる事と考へられ
申候該病に就て森島氏の報告等も拜見仕候當
院は於ても昨年施療せし患者數名有之候もつ
き何れ近日中院長の許可を得て御覽お入れ度

と存居申候又當院ふ於て誠に奇異の患者も實
 驗致し候得共何分解剖をふし得ざりしと誠に

じく解剖をなすと能くせして止みたる等如何
 かも残り惜しき事多々之あり候云々

残念の事にて有之候例令は麻刺利亞に續發せ
 る黃疸患者にして入院後二週日よして諸症全

●各高等學校明治三十三年度歳入歳出豫算
 (官報拔載)

治し明日退院と云ふの通知をふしさる當夜九

第四高等學校

時頃突然數百瓦の吐血(鏡檢上及び培養基上

歳入

凡て陰性)をふし二時間余にして死亡せる等

經常部

み御座候又一兵士風紀衛兵立哨中下脚み鈍痛

第一款 第四高等學校 金八、〇四七二、七八五^方

を覺へ俄かに下脚に浮腫を來たし四五日よし

第一項 政府支出金 金六、二七一八、三〇〇

て右下脚全部に劇痛を發し漸々足尖より壞疽

第二項 諸收入 金一、七七五四、四八五

に陥り脛骨上端に於て分界線を造りたり依て

第二款 用途指定寄付金 金七、四四四

大腰中部の切斷術と施せしも遂に二ヶ月許に

第一項 生徒獎勵資金寄付金 金七、四四四

して死亡せり當時或者は腹部より按診せるに

第三款 特別資金繰入 金七二、五五六

脊柱に沿ひ「インキ」壺大の硬索を觸るゝと云

第一項 生徒獎勵資金 金七二、五五六

ひ或の否と云ひ隨分甲論乙說面白かりしも同

合計 金八、〇五五二、七八五

歲出

資金部歲入

經常部

第一款特別資金收入

金三九〇

第一款 第四高等學校 金八、〇四七二、七八五

第一項 本校創立費資金利益金

金三九〇

第一項 俸給及諸給 金四、八六八五、〇〇〇

資金部歲出

第二項 廳費 金一、七五九〇、二九〇

第一款 維持資金支出

金一〇五三、五三五

第三項 修繕費 金一二〇八、〇〇〇

第一項 財產購入代

金一〇五三、五三五

第四項 死傷手當 金一、〇〇〇

第二款 特別資金支出

金七二、五五六

第五項 賠償及訴訟費 金二、〇〇〇

第一項 生徒獎勵資金線入

金七二、五五六

第六項 諸收入過誤納下戻 金一、〇〇〇

合計

金一二六、〇九一

第七項 旅費 金七六二、三五〇

第一高等學校
歲入

第八項 雜給及雜費 金五九八三、一四五

經常部

第九項 備外國人諸給 金六二四〇、〇〇〇

第一款 第一高等學校 金一二、八七一二、九五二

第二款 用途指定費 金八〇、〇〇〇

第一項 政府支出金

金八、八六五四、五二四

第一項 學生費 金八〇、〇〇〇

第二款 特別資金線入

金八五〇、〇〇〇

合計

金八、〇五五二、七八五

第一項 佛學生徒獎勵資金

金八五〇、〇〇〇

合計 金一二、九五六二、九五二

歲出

經常部

第一款 第一高等學校 金一二、八七一二、九五二

第一項 俸給及諸給 金六、九三三七、〇〇〇

第二項 廳費 金二、五三九二、八八四

第三項 修繕費 金三、七九二、〇〇〇

第四項 死傷手當 金一、〇〇〇

第五項 賠償及訴訟費 金二、〇〇〇

第六項 諸收入過誤納下戻 金一、〇〇〇

第七項 旅費 金七、九〇、八七〇

第八項 雜給及雜費 金一、四三九六、一九八

第九項 備外國人諸給 金一、五〇〇〇、〇〇〇

第二款 用途指定費 金八五〇、〇〇〇

第一項 學生費 金八五〇、〇〇〇

合計 金一二、九五六二、九五二

資金部歲入

第一款 特別資金收入 金二、九〇、九三二

第一項 生徒獎勵資金利益金 金一二、〇一二

第二項 佛學生徒獎勵資金寄付金 金二五〇、〇〇〇

第三項 佛學生徒獎勵資金利益金 金二八、九二〇

資金部歲出

第一款 維持資金支出 金四、七六八、八二一

第一項 財產購入代 金四、七六八、八二一

第二款 特別資金支出 金八五〇、〇〇〇

第一項 佛學生徒獎勵資金線入 金八五〇、〇〇〇

合計 金五、六一八、八二一

第二高等學校

歲入

經常部

第一款 第二高等學校 金八、六〇六五、二六五

第一項 政府支出金 金六、四〇三五、二二三

第二項 諸收入 金二、二〇三〇、〇四二

臨時部

第一款 圖書機械及標本費受入金

第一項 政府支出金 金三〇〇〇、〇〇〇

第一項 政府支出金 金三〇〇〇、〇〇〇

第一項 政府支出金 金三〇〇〇、〇〇〇

合計 金八、九〇六五、二六五

歲出

經常部

第一款 第二高等學校 金八、六〇六五、二六五

第一項 俸給及諸給 金五、二九六五、〇〇〇

第二項 廳費 金一、七五七四、七八一

第三項 修繕費 金一〇二一、〇〇〇

第四項 死傷手當 金一、〇〇〇

第五項 賠償及訴訟費 金二、〇〇〇

第六項 諸收入過誤納下戻 金一、〇〇〇

第七項 旅費 金六七四、四九九

第八項 雜給及雜費 金四九九五、九八五

第九項 備外國人諸給 金八八三〇、〇〇〇

臨時部

第一款 圖書機械及標本費 金三〇〇〇、〇〇〇

第一項 圖書機械及標本費 金三〇〇〇、〇〇〇

合計 金八、九〇六五、二六五

資金部歲入

第一款 維持資金收入 金一〇〇〇、〇〇〇

第一項 歲入殘餘繰入 金一〇〇〇、〇〇〇

第二款 特別資金收入 金一七、〇〇四

第一項 生徒獎勵資金利益 金一〇、〇〇四

合計 金一〇一七、〇〇四

資金部歲出

第一款 維持資金支出 金二四五〇、八六〇

第一項 財產購入代 金二四五〇、八六〇

第三高等學校

歲入

經常部

第一款 第三高等學校 金一〇、七一九五、三四七

第一項 政府支出金 金八、四〇四三、八六八

第二項 諸收入 金二、三一五一、四七九

第二款 用途指定寄付金 金九九五、〇〇〇

第一項 學生費寄付金 金九九五、〇〇〇

合計 金一〇、八一九〇、三四七

歲出

經常部

第一項 第三高等學校 金一〇、七一九五、三四七

第一項 俸給及諸給 金五、九一七五、〇〇〇

第一款 維持資金支出 金五四五〇、六〇〇

第二項 廳費 金二、八四八六、七四六

第一項 財產購入代 金五四五〇、六〇〇

第三項 修繕費 金一五三一、六八三

第五高等學校

第四項 死傷手當 金二、〇〇〇

歲入

第五項 賠償及訴訟費 金三、〇〇〇

經常部

第六項 諸收入過誤納下戻 金六、〇〇〇

第一款 第五高等學校 金二、四一一七、四五二

第七項 旅費 金一〇八八、三八〇

第一項 政府支出金 金九、三八二一、四五二

第八項 雜給及雜費 金七一八二、五三八

第二項 諸收入 金三、〇二九六、〇〇〇

第九項 備外國人諸給 金九七二〇、〇〇〇

第二款 特別資金繰入 金五〇、〇〇〇

第二款 用途指定費 金九九五、〇〇〇

第一項 生徒獎勵資金 金五〇、〇〇〇

第一項 學生費 金九九五、〇〇〇

經常部合計 金二二、四一六七、四五二

合計 金一〇、八一九〇、三四七

臨時部

資金部歲入

第一款 維持資金收入 金一一五〇、〇〇〇

第一款 機械費受入金 金五〇〇〇、〇〇〇

第一項 歲入殘餘繰入 金一一五〇、〇〇〇

第一項 政府支出金 金二二、九一六七、四五二

第二款 特別資金收入 金一七、一八四

歲出

第一項 生徒獎勵資金利益金 金一七、一八四

經常部

合計 金一一六七、一八四

第一款 第五高等學校 金二二、四一一七、四五二

資金部歲出

第一項 俸給及諸給 金六、八六九二、〇〇〇

第二項 廳費 金三、〇五〇、四、〇〇〇

第三項 修繕費 金二六〇〇、〇〇〇

第四項 死傷手當 金一、〇〇〇

第五項 賠償及訴訟費 金二、〇〇〇

第六項 諸收入過誤納下戻 金一、〇〇〇

第七項 旅費 金三、二九七、〇〇〇

第八項 雜給及雜費 金一、二〇二〇、四五二

第九項 學生費 金六〇〇、〇〇〇

第十項 備外國人諸給 金七四〇〇、〇〇〇

第一款 用途指定費 金五〇、〇〇〇

第一項 學生費 金五〇、〇〇〇

經常部合計 金二、四一六七、四五二

臨時部

第一款 機械費 金五〇〇〇、〇〇〇

第一項 機械費 金五〇〇〇、〇〇〇

合計 金二、九一六七、四五二

資金部歲入

第一款 特別資金收入 金一四、一〇〇

第一項 生徒獎勵資金利益金 金一四、一〇〇

資金部歲出

第一款 維持資金支出 金三五五、六〇五

第一項 財產購入代 金三五五、六〇五

第二款 特別資金支出 金五〇、〇〇〇

第一項 生徒獎勵資金繰入 金五〇、〇〇〇

合計 金四〇五、六〇五

第六高等學校

歲入

經常部 第一款 第六高等學校 金二、三一三八、二〇〇

第一項 政府支出金 金二、〇六七八、二〇〇

第二項 諸收入 金二四六〇、〇〇〇

臨時部

第一款 圖書機械及標本受入金 金一、〇〇〇〇、〇〇〇

第一項 政府支出金 金一、〇〇〇〇、〇〇〇

合計 金三、三一三八、二〇〇

歲出

經常部

第一款 第六高等學校 金二、三一三八、二〇〇

第一項 俸給及諸給

金九九五五、〇〇〇

第二項 用途指定寄付金 金二、五〇〇、〇〇〇

第二項 廳費

金五三九二、〇〇〇

第一項 學校費寄附金 金二、五〇〇、〇〇〇

第三項 修繕費

金一〇〇、〇〇〇

第三項 前年度繰入金 金一四五九、〇〇〇

第四項 死傷手當

金一、〇〇〇

第一項 用途指定寄付支出殘金 金一四五九、〇〇〇

第五項 賠償及訴訟費

金二、〇〇〇

合計 金四、五四二九、〇〇〇

第六項 諸收入過誤納下戻

金一、〇〇〇

歲出 金四、五四二九、〇〇〇

第七項 旅費

金一一〇八、〇〇〇

經常部

第八項 雜給及雜費

金二三五九、二〇〇

第一款 山口高等學校 金四、一五二九、〇〇〇

第九項 備外國人諸給

金四二二〇、〇〇〇

第一項 俸給及諸給 金二、一七一五、〇〇〇

臨時部

第一款 圖書機械及標本費

金二、〇〇〇、〇〇〇

第二項 廳費 金八〇八四、〇〇〇

第一項 圖書機械及標本費

金二、〇〇〇、〇〇〇

第三項 修繕費 金一八四一、〇〇〇

合計

金三、三三八、二〇〇

第四項 死傷手當 金一、〇〇〇

山口高等高等學校

金三、三三八、二〇〇

第五項 賠償及訴訟費 金二、〇〇〇

歲入

金三、三三八、二〇〇

第六項 諸收入過誤納下戻 金一、〇〇〇

經常部

金三、三三八、二〇〇

第六項 旅費 金九二〇、〇〇〇

第一款 山口高等學校

金一、八九七〇、〇〇〇

第八項 雜給及雜費 金二七二五、〇〇〇

第一項 政府支出金

金八九九〇、〇〇〇

第九項 備外國人諸給 金六二四〇、〇〇〇

第二項 諸收入

金一、〇〇六一、〇〇〇

臨時部

第一款 新營費

金三九〇〇、〇〇〇

第一項 新營費 金三九〇〇、〇〇〇

第一項 銃器室及雨天
體操場改築費 金一九〇〇、〇〇〇

第二項 土地家屋買収費 金二〇〇〇、〇〇〇

合計

金四、五四二九、〇〇〇

● 金澤病院患者數 明治三十二年中に於ける金澤病院患者數と表示するよ左の如し

年次	自費患者		給費患者	
	入院	外來	入院	外來
明治三十二年	實人員延人員 一三八〇三一九八六一	實人員延人員 一四〇七五四二八三	實人員延人員 一八六七九八九	實人員延人員 三七九二七四一

● 解剖體員數 本校に於ける明治三十二年中解で藥學科に於て今月一日より六月二十日まで
剖に附せる遺體數は男四〇女二六合計六六なり お願書差出すべく凡そ百五十名の豫定員ありと
云ふ

● 醫學部生徒募集 本年九月入學せしむべき第
四高等學校醫學部醫學科及藥學科生徒各一年級
へ官公私立中學校卒業生より募集す出願期日は
醫學科に於て來る五月一日より全三十一日迄

石川縣金澤病院徵收金額表

品名		分量	代價	品名		分量	代價
丸、散、水劑	傾服劑	一日一分	金拾八錢 <small>滿十三歲以下</small>	腔內球	一個	金四錢	
一	一度分	金六錢	膏藥	拾	瓦	金四錢	
翳法劑	洗滌劑	金六錢	點眼劑	五	瓦	金七錢	
合嗽劑	吸入劑	金六錢	撒布劑	五	瓦	金參錢	
注射劑	注射劑	金六錢	灌腸劑	一	劑	金四錢	
燃料劑	塗布劑	金八錢	塗擦劑	十	瓦	金參錢	
點耳劑	點耳劑	金五錢	消毒劑	一	劑	金五錢	
塗布劑	塗布劑	金五錢	防腐劑	百	瓦	金貳錢	
尿道坐藥	尿道坐藥	金貳錢	喘息劑	一	本	金六錢	
一	個	金貳錢	滴劑	十	瓦	金七錢	

藥 價

等級	種	術	料	別	金額
肛門坐藥	一	個	金參錢	タフシヤ膏	方一寸金貳錢
臍坐藥	一	個	金四錢	絆創膏	方一寸金壹錢
一等	開腹術ヲ要スル内臟諸手術ノ類				甲金拾圓 乙金七圓
二等	穿顱術、四肢切斷術、大關節離斷術、大關節切除術、造鼻術、人工肛門造設術、ト顎切除術、ヘルニヤ根治手術、腸管切除術、膀胱結石摘出術、血清注射、白內障摘出術、眼球摘出術、肛彩切除術、斜視複手術、眼窩内腫瘍摘出術、腔瘦縫合術、子宮全摘出術、腔會陰成形術、產科大手術ノ類				甲金五圓 乙金參圓
三等	複雜骨折、肋骨切除術、腐骨摘出術、深部膿瘍切開、兔唇手術、痔核手術、頸腺摘出術、痔瘻手術、眼瞼大成形術、全葡萄腫切除術、眼内容抓把術、虹彩剝離術、顆粒搾出術、水晶囊切開術、斜視單手術、眼窩内切開術、眼瞼大腫瘍摘出術、產科小手術、腔成形術、會陰成形術、子宮腔部切除及燒灼術、内外陰部大腫瘍切除術ノ類				甲金貳圓 乙金壹圓五錢
四等	麻醉藥ヲ要スル小切開術及小成形術、穿胸術、腹穿術、脫臼整復術、小關節切斷離斷及切除術、割刺術、眼瞼小成形術、眼球内異物摘出術、黃片切除術、局所葡萄腫切除術、淚囊切開術、子宮内搔爬術、後產娩出、電氣燒灼術ノ類				甲金壹圓 乙金七拾錢
五等	麻醉藥ヲ要セサル切開術及摘出術、角膜炎手術、眼瞼小腫瘍切除術、子宮大出血處置、食鹽水及沃度仿謨注入法ノ類				甲金五拾錢 乙金參拾錢

六等	瘡疽切開、小創傷縫合、異物摘出ノ類	金貳拾錢
七等	小創傷綑帶交換ノ類 <small>(綑帶品ノ多少ニヨリ等差アルヘシ)</small>	金拾五錢
八等	皮下注射、膀胱洗滌、拔牙、尿道ブーシ法、尿道洗滌、胃洗滌、瀉血法、種痘、灌腸、兩尿管洗滌ノ類	金拾錢
九等	兩眼耳鼻ノ點藥、洗滌、塗布、撒布ノ類、耳通氣法及ブーシ法、尿管ブーシ法、片尿管洗滌、電氣療法、蒸氣吸入療法、婦人科の普通處置、(洗滌タンポナーデ點藥等)小尿管切開ノ類	金六錢
十等	片眼耳鼻ノ點藥、洗滌、塗布、撒布ノ類	金參錢
入院料		
等級	特等	一等
金額	一日金壹圓五拾錢	一日金七拾錢
		一日金五拾錢
		一日金參拾錢
診察及診斷書處方箋料		
診察料	金五拾錢 診察券有効期限管内ノ者一ヶ月管外ノ者一ヶ月但診察料ヲ納ムルヲ能ハサル者ハ庶診券ヲ付與ス	
診斷書料	三種ニ區別ス 甲金壹圓、乙金五拾錢、丙金貳拾五錢	
處方箋料	金五拾錢	

備 一本表記載外ノ手術ヲ行フトキハ本表ノ等級ニ準シ相當ノ手術料ヲ徴収スルモノトス
 一 高價藥ハ本表ニ拘ハラス相當ノ代價ヲ徴収スルモノトス
 一 拂下品(イルカトール、吸入器、ヘルニヤ帶、陰囊帶、縋帶木綿、點眼器等ノ類)ハ相當
 考 代價ヲ徴収スルモノトス

● 寄贈書目

日本眼科學會新誌	第三卷十二號 第四卷壹號	同 會	日本醫事週報	第二一四、五號	同 會
藥學雜誌	第二一四、六號	日本藥學會	醫海時報	第九二、三、四、 五六七八九號	同 社
井上眼科同 窓會々報	第七、八號	同 會	中外醫事新報	第四七五、 六、七八號	同 社
京都醫學會雜誌	第一四四、五號	同 會	東京醫事新誌	第一一三三、三、 四五六七八號	沼田外太郎君
公衆醫事	第十二、壹號	同 社	順天堂醫事 研究雜誌	第三二二、 三、四、五號	同 會
助産之榮	第四十三、 四、五、號	緒方病院 助産婦學會	廣島衛生 醫事月報	第一二、三號	同 社
植物學雜誌	第四號	同 社	緒方病院 研究會	壹册	同 病院
醫事會報	第九十六、 七、八號	同 會	三十二年巢鴨 病院醫事年報	第五五七、 六〇一號	同 社
岡山醫學會雜誌	第一一九二〇號	同 會	醫事新聞		
助産婦新報	第二四、五號	同 社			

東京醫學會雜誌 第一四號 同 會 ●第十一號正誤

京都醫學校友會誌第十八、九號 同 會 誤 正

三州文學 第三號 同 會 三十八頁十三行「痘著」 「癒着」

二十世紀醫事 第二三三號 同 社 七十二頁上段十行「腫核」 「胞核」

ハスト 全一冊 大坂傳染病 七十四頁上段七行「見習士官」 「見習醫官」

Sonderdruck aus Dem Archiv für Klinische 研究 所 七十六頁九行「病理實習」 「○○○○
病理實習」

Chirurgie 七十七頁七行「未村」 「未近」

Medizinischer Verlag von F. C. W. VOGEL. 百十六頁下段五行「石川縣鹿島郡石山片村」は

in Leipzig 「石川縣鹿島郡西岸村瀨嵐」の誤

Verlags-Bericht von J. F. LEHMAN. 百十七頁下段五行「八坂」 「八牧」

MÜNCHEN. 百二十一頁上段六行「富山縣」 「岡山縣」

WILHELM BRAUNTLER WIENLIPPZIG 同上脱漏

伯林最新々聞 五部 高安右人氏 脱す 以上 木村孝藏氏 七十三頁上段十三行「血管」の下お「腫」の一字を

又會員姓名錄中左記のものを脱漏せり

賛成會員中(百十頁)

福井縣福井市寶永中町二六(海軍々醫學校)

武田 正壽

通常會員中

「まの部」

京都五條柳馬場六五

增井 佐藏

「せの部」

朽木縣安蘇郡氷室村一二

關口 通太郎

「その部」

岡山縣美作國勝南郡河邊村

荻尾 正次

「あの部」

金澤市西町藪ノ内通り六番地

新 次 郎

「たの部」

石川縣石川郡松任東二番町三一

高田 久正

「かの部」

山口縣佐波郡三田尻村第七五五

柏木 敬介

● 次號雜誌投稿

締切期限

次號雜誌投稿ノ切期限を來五月十五日とす

● 講話會開會期

日豫告

第十六回講話會は來四月二十八日(第四土曜日)第十七回講話會と來五月十九日(第三土曜日)午後より本校生徒扣所に於て開く

~~~~~